

館林市遺跡詳細分布調査報告書

館林市の遺跡

1 9 8 7

館林市教育委員会



館林市遺跡詳細分布調査報告書

館林市の遺跡

1 9 8 7

館林市教育委員会

目 次

目 次

例 言

1. 調査の目的	1
2. 調査の概要	1
3. 調査の方法と結果	2
(1) 地形確認調査	2
(2) 遺物サンプリング調査	6
(3) 遺跡の推定	7
4. 埋蔵文化財の保護と管理	8
遺跡地図	10
遺跡地番表	45
第1図 館林の地形図	4
第2図 遺物散布地分布図	5
第1表 時代別遺跡集計表	7
第2表 埋蔵文化財取り扱い事務の流れ	9

例 言

1. 本報告書は、館林市内全域を対象として行なった遺跡詳細分布調査の結果をまとめたもので、調査概要の報告と遺跡地図、遺跡地番表からなり、遺跡台帳をかねている。
2. 遺跡詳細分布調査は、昭和58年度から昭和62年度の5ヶ年間で実施したものである。
3. 調査の費用は、国・県の補助金を受けて館林市が負担した。
4. 遺跡地図の縮尺は7500分の1で、原図には、2500分の1の館林市都市計画図を使用した。
5. 遺跡地図には、遺跡・城館址・指定文化財のうち土地に係わる史跡・名勝・天然記念物の所在が表記してある。
6. 遺跡地図のトーンは、遺跡・城館址の推定される範囲を示し、実線は遺跡・城館址の発掘調査対象地と指定文化財の範囲を示している。トーンのちがいは遺跡と城館址・指定文化財を示している。古墳は推定地を含め●で表わした。
7. 遺跡地図の番号は、遺跡番号で遺跡地番表の遺跡番号と一致している。
8. 遺跡名には原則として小字名を使用し、同一小字に二つ以上の遺跡がある場合は、小字名の次にアラビア数字を付して遺跡名とした。また二つ以上の小字にわたる時には、代表小字名を遺跡名とした。
9. 旧台帳の遺跡名は、そのまま使用し、説明の必要なものは遺跡地番表の備考欄に記述した。
10. 遺跡地番表は、遺跡ごとに整理した。
11. 遺跡地番表の地番は、発掘調査の対象となる地番を表記した。

1. 調査の目的

埋蔵文化財は、文化財の種類ではなく、文化財の存在する状態をさす言葉で、地中や水中に埋蔵されている文化財の総称である。

文化財が埋蔵している土地を埋蔵文化財包蔵地といい、一般的には「遺跡」と呼ばれ、過去の人々の生活の痕跡を残す場所をさすことが多い。

埋蔵文化財は、文化財が地中や水中に埋蔵されている状態であるため、地表面からはその状態は明らかでなく、発掘調査を通してはじめて、状態が確認され文化財としての価値が明らかにされることから、埋蔵文化財包蔵地は、重要な文化財を包蔵する可能性のある土地として文化財保護法により保護の対象とされている。

その保護の方法は、遺跡を事前に確認し台帳として整備しておき、包蔵地における開発行為に対して、チェックをするという方法がとられている。

館林市における遺跡に対する基本的な調査は、昭和36年・46年と10年毎に調査されており、調査に伴って遺跡台帳が整備されてきた。

特に、昭和46年の調査は、群馬県下第一勢に行なわれた群馬県遺跡台帳の整備に伴って実施されたもので、現在の館林の遺跡台帳は、この時のものである。

しかしながら今日では、台帳整備後10数年がたち、その間の土地改変や環境の変化に伴って破壊された遺跡があつたり、新しく遺跡が発見されるなど、環境の変化に伴う追調査も実施されていないこともあって、現在の遺跡台帳は、現状の埋蔵文化財の保護や管理・開発行為との調整における基礎資料として充足しているものとは言いがたい状況である。

環境の変化や、社会情勢の変化に伴う遺跡に対する追調査は、予算や時間・人員の配置等を考慮しなければできないもので、一般的には、10年や15年という間隔のなかで実施されることが多い。

今回の遺跡詳細分布調査は、こうした状況をふまえ、埋蔵文化財包蔵地に対して、根本的に見なおしを行ない、今後の遺跡の保護・管理に対応できる新しい遺跡台帳を整備すべく実施したものである。

2. 調査の概要

館林市遺跡詳細分布調査の概要是次のとおりである。

1. 調査範囲 館林市内全域

2. 調査期間 昭和58年度～昭和62年度

3. 事業内容 館林市内を四地区に分け、年度ごとに地形確認調査・遺物サンプリング調査を実施した。調査結果は、年度ごとに概要報告書として報告を行った。

最終年度は、調査のデータを整理し、補充調査を行い遺跡地図を刊行した。

4. 年次別実施概要

年度	5 8	5 9	6 0	6 1	6 2
調査内容	地形確認 遺物サンプリング 遺物整理	地形確認 遺物サンプリング 遺物整理	地形確認 遺物サンプリング 遺物整理	地形確認 遺物サンプリング 遺物整理	補充調査 データ整理 ボーリング調査
実施地区	郷 谷 赤 羽	六 郷 三 野 谷	多々 良 波 漸	館 林 大 島	市 内 全 域
備考	報告書刊行	報告書刊行	報告書刊行	報告書刊行	遺跡地図刊行 台帳 整 備

5. 調査組織

1) 調査主体 館林市教育委員会 文化振興課 文化財係

組織は次の通り

年 度	5 8	5 9	6 0	6 1	6 2
教 育 長	福田 郁 司 (11月まで) 坂 越 亘 (12月より)	坂 越 亘	坂 越 亘	坂 越 亘	坂 越 亘
教 育 次 長	鳥 田 強 吉	鳥 田 強 吉	伊 藤 敏 夫	伊 藤 敏 夫	伊 藤 敏 夫
課 長	藤 田 正 弘 (6月まで) 森 田 茂 (7月より)	森 田 茂	橋 本 一 郎	橋 本 一 郎	板 木 充 弘
係 長	三 田 正 信	三 田 正 信	三 田 正 信	三 田 正 信	三 田 正 信
担 当 者	岡 星 英 治	岡 星 英 治	岡 星 英 治	岡 星 英 治	黒 沢 文 隆
調査補助員		寺 内 晴 子	藤 坂 和 延	藤 坂 和 延	藤 坂 和 延

2) 調査協力者 遺物サンプリング調査には、遺物や遺構の時代、散布範囲の決定に、ボーリング調査については、地質層序や分析に専門的知識が必要となることから、調査協力者を依頼した。
調査協力者は次のとおりである。

年 度	氏 名	所 属
5 8	藤巻 幸男・小島敦子・原 雅信・徳江秀夫 石坂 茂・岩崎泰一・飯田陽一・大木紳一郎	群馬県埋蔵文化財調査事業団
5 9	徳江秀夫・小島敦子・岩崎泰一	群馬県埋蔵文化財調査事業団
6 0	徳江秀夫・小島敦子・岩崎泰一 鹿田 雄三	群馬県埋蔵文化財調査事業団 太田西女子高等学校
6 1	藤巻 幸男・小島敦子・原 雅信・徳江秀夫 石坂 茂・岩崎泰一	群馬県埋蔵文化財調査事業団
6 2	藤巻 幸男・小島敦子・原 雅信・徳江秀夫 石坂 茂・岩崎泰一 辻 誠一郎	群馬県埋蔵文化財調査事業団 大阪市立大学

3. 調査の方法と結果

(1) 地形確認調査

遺跡の所在は、その時代の地形・環境に左右されることが多い。

地形は、人々の行動の範囲を制限していることが多く、特に居住地や生産域は地形に合致する場所に営まれるのが普通である。

こうしたことから、各時代の地形を復元することは、その時代の居住域や生産域といった生活域を予想することで、遺跡の立地を考えるうえで大きな要素となる。

今回の分布調査では、遺跡の立地できる環境を推定する調査として、地形確認調査を実施した。

地形確認調査は、現在の地形を観察し、土地の高低から台地と低地を分けたもので、遺物サンプリング調査の事前調査として、実際に現地を踏査し台地から低地への移行線を、2500分の1都市計画図に画面化したものである。この際、現地で確認できない地域については、土地条件図や航空写真を参考として線引きを行った。

この調査によって確認できた館林市の現在の地形についてまとめてみたい。

館林市の地形は、低地（沖積地・谷地・湿地・池沼・河川等）と台地（洪積台地・内陸古砂丘・微高地・自然堤防等）から成り立っている。

市内の地形を概観すると、市内中央部に低台地があり、低台地から低地に移行する部分に微高地が、その周辺を取り巻くように低地が広がり、北は渡良瀬川、南は谷田川へと連なっている。

さらに、詳しく見てみると、市街地を構成する低台地は邑楽・館林台地と呼ばれる洪積台地で、下木吉・小原台面に相当し、中部ローム層・上部ローム層を載せている。

トップは比較的平坦であるが、市の西から東へ向けて緩やかに傾斜している。標高は市内の西部で25メートル、東部では18メートルを測る。

西縁にそって比高5~10メートル、巾250m程の内陸古砂丘が連なっており、この内陸古砂丘も、洪積台地同様中部ローム層・上部ローム層を載せている。

微高地は、洪積台地の南側、特に茂林寺沼から蛇沼にかけてと、洪積台地の北側の矢場川に沿う部分に比較的良く発達している。

洪積台地から低地の移行面に、洪積台地より一段低くテラス状に広がり、現水田面との北高は0.5~2メートル程である。

自然堤防は、現在の渡良瀬川や谷田川、市内東北部の低地中の旧河道に沿って所在している。特に、市内東北部の低地中の自然堤防は良く発達しており、数条の自然堤防が確認されてい

る。

現水田面からの比高は0.5メートル内外で、一部は、洪積台地や微高地に接し、地形を複雑にしている。

低地帯は、台地を取り巻くように所在しており、大きく市街地の東北部、渡良瀬川南面の沖積地と、市街地の西南部、谷田川北面の沖積地に分けられる。

この沖積地は、渡良瀬川や谷田川によって埋積された氾濫原と考えられ、沖積地中には多くの谷地や湿地が形成されている。標高は18m以下である。

台地を樹枝状に浸食して多くの谷が形成されている。これらの谷は洪積台地の南側に良く発達しており、浸食された洪積台地は舌状になっている。

谷の巾は、比較的狭く50m前後で、谷頭は後世の環境の変化や土地改変で埋没していることが多い。市内で台地を最も奥部まで浸食した谷は駒生田川で、洪積台地を市の中央で南北に二分している。

谷頭は、樹枝状に分かれているが、最も上流部は、松沼町まで遡ることができる。

こうした谷が、台地から低地へ出て来る部分には、城沼や茂林寺沼、蛇沼といった池沼が形成され、沖積地中の谷地や湿地とともに本市の地形の特徴となっている。

以上が、現地形から観察した館林の地形である。

遺跡の立地を考えるうえで地形の確認を行うことは、有効な手段ではあるが、今回の地形確認調査は、現状での地形観察であるため、時代別の地形については明らかにできていない。

遺跡の立地を考えるためにには、時代別の地形、環境を復元することが必要である。

昨近、この問題を補足する方法として、ボーリングによる環境の復元がとられている。これは、ボーリングによって採取した土中の堆積物を分析し、環境を復元する方法で、ボーリング地点を中心としたある程度の範囲の環境を時代別に推定することができる。

ここで、茂林寺沼及び低地湿原の調査に伴って採取された茂林寺沼や蛇沼、古城沼、日々良沼でのボーリングデータと、市内大島の渡良瀬川河川床から古墳時代の遺物が確認されたことに伴うボーリングのデータ等から、館林市の特に沖積地の時代的環境をみてみたい。

特筆すべきことは、今から約3000年以前の縄文時代中期頃までは、現在の沖積地は、大きな深い谷で、河川は谷底を流れ、一部に池沼や湿地が広がっていた様子が推定されることである。つまり、縄文時代の台地と谷の地表面は7メートル以上の高低差があり、当時の生活域は現在よりもるかに広いという状況が想像できる。

又、縄文時代後期から弥生時代にかけて（約3000年～約2000年前）には、さらに水位が下がり、この谷底は乾燥し、人々の生活のできる状態であることも推定されている。

つまり、この時期には、現在の沖積地の下でも居住地となる条件をそなえているわけである。

その後、古墳時代から奈良時代（約2000年前～7世紀初頭）にかけては、水位が上がり、谷底は、水域や湿原となり堆積が始まる。平安時代（7世紀初頭～9世紀末）には、火山噴火の影響で周辺の河川の氾濫が頻繁に起こり谷は埋没していく状況が観察され、市内東北部の沖積地中の自然堤防は、この時期の氾濫によるものと考えられている。

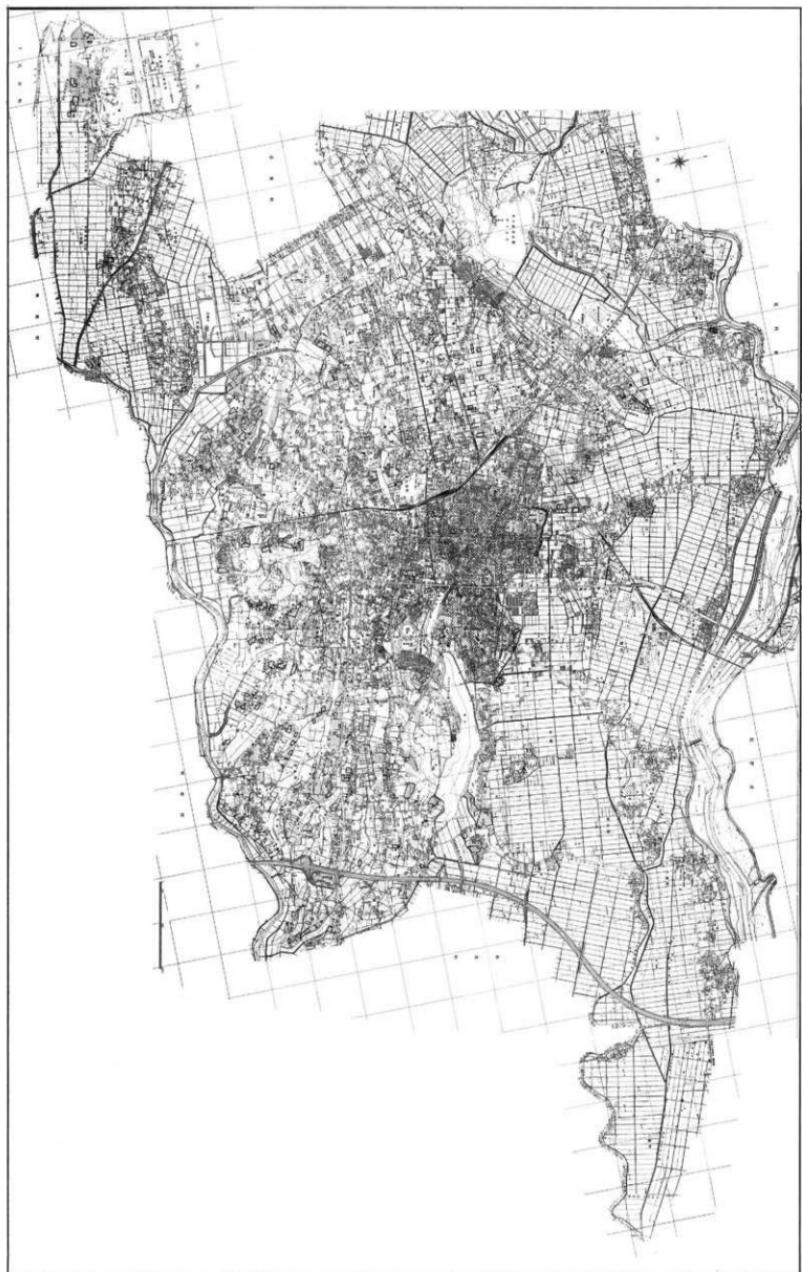
平安時代以後江戸時代の中期頃まで（9世紀末～18世紀）も、氾濫と堆積がくりかえされ、谷は埋没し、現在のような沖積地の状況ができたと調査されている。

現在の地形は、こうした環境の変化のなかで形成されており、遺跡の立地を考えるにあたっては、地形観察による地形復元と、ボーリングデータによる環境復元を両面から考える必要があると言える。

図 1 第 1 版 の 地 無



第2図 遺物散布地分布図



(2) 遺物サンプリング調査

人類の生活の痕跡は、文字によって書かれた事象等の記録、生活用具や人間の残した構築物、言い伝え等を分析することにより立証することができる。

特に、記録の無い時代（原始・古代）における人類の生活痕跡は、生活用具や構築物を通して確認せざるをえない。

生活用具は、廃棄された段階で地中に埋没してしまうが、後世の耕作や土地変更などで地表に露出する。この生活用具（遺物）を調査することで遺跡の所在を確認することができる。

今回の分布調査では、遺物サンプリング調査として、生活用具（遺物）の散布地と、人間の残した構築物（遺構）を図面化し遺跡の範囲を確認する方法をとった。

調査は、事前調査としての地形確認調査を通して想定された地形図をもとに、現地踏査を行い遺物の散布地と残存している遺構を2500分の1都市計画図に図面化した。

図面化の方法としては、単体として遺物が確認される散布地は点で、遺物が複数で範囲をもって確認された散布地と遺構の残存する地域はその範囲を図面化した。

また、確認された遺物や遺構の時代、遺物の出土量の濃淡等を記述によって添えた。

以下調査の結果をまとめてみたい。

今回の調査で確認された遺物の散布地は696ヶ所、遺構の残存する地域は、63ヶ所である。

遺物散布地のうち、遺物が一点のみで確認された散布地が402箇所、範囲として確認された散布地が294箇所である。

確認された遺物は、そのほとんどが土器片で、石器はわずかに2点である。

遺物散布地・遺構の残存する地域について時代的な変遷のなかでみてみたい。

旧石器時代の遺物は確認されていない。

縄文時代の遺物は80地点あまりが確認されている。

時期的には、早期秦浜文系の上器の確認された散布地が2地点、前期の土器が確認できる散布地は16地点、土器は黒浜式、関山式、諸磣式である。

中期の土器が確認できる散布地は41地点、出土土器は、加曾利E式、阿玉台式である。

後期の遺物の確認できる散布地は6地点、土器は称名寺式、加曾利B式、安行式があげられる。晩期の遺物の確認できる散布地は確認されていない。

このほかに、時期決定のできない縄文時代の遺物が確認できる散布地が15地点ある。

弥生時代の遺物の確認できる散布地は確認されていない。

古墳時代の遺物の散布地は31地点確認された。

時期別に見てみると、前期石田川式の土器の確認できる散布地が2地点、中期和泉式の土器の確認される散布地が2地点、後期鬼高式の遺物の確認できる散布地21地点、埴輪片が確

認される散布地が6地点ある。

また、遺構として、古墳25基（推定を含む）が確認されている。

奈良時代の土器が確認される散布地は14地点、平安時代の遺物の散布地が340地点で確認されている。またこの他に、時期を明確にできない土器の散布地が216地点確認されているがこれらの中にはいずれも奈良・平安時代の遺物である。

中世の土器片は15地点で確認されている。

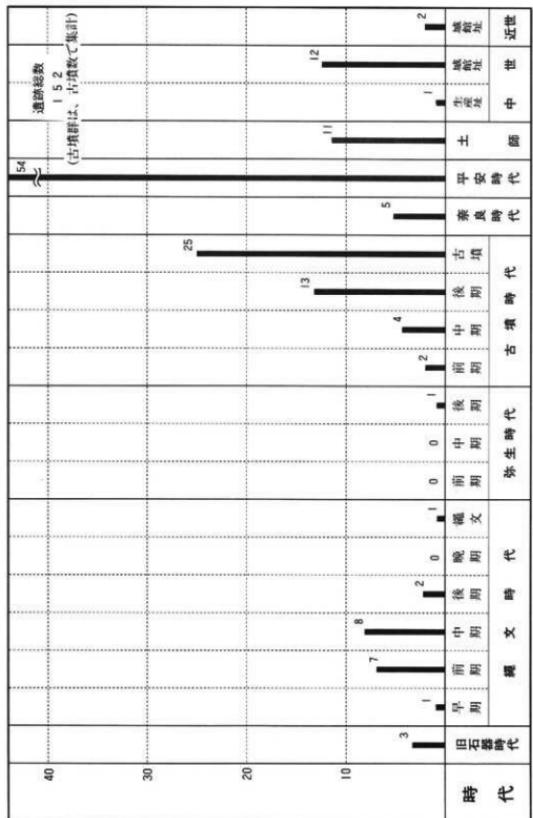
中世の遺跡のうち、記録や伝承に伝えられた城館址が16ヶ所あるが、このうち伝承地が複数できる城館址10ヶ所、残存する遺構は17地点である。

近世の城館址として館林城跡・近藤陣屋があげられ21地点で遺構を残している。

今回の調査では、前述のとおり、遺物の散布する地点や範囲、遺構の残存する地域を図面化したにすぎない。こうしたこととは、今回確認された地点や範囲が、必ずしも遺跡の範囲そのものであると言いたいことはできない。

今回確認された散布地や範囲を、これまでの調査の結果、出土遺物の時期、地形、時代の環境等と有機的に結びつけて遺跡にせまることができるわけである。そのうえであらためて館林市における遺跡の特性を考えてみたい。

第1表 時代別遺跡集計表



(3) 遺跡の推定

これまで、地形確認調査、遺物サンプリング調査の調査結果について記述してきた。ここでは、これらの調査のデータをもとに、遺跡の範囲やその立地についてまとめてみたい。

今回の遺物サンプリング調査によって確認された遺物散布地や残存する遺構、過去の調査によって確認されている遺跡や伝承されている城館址等を地形図上に重ねあわせることによって、遺跡を立体的に地形のなかでとらえることができる。

つまり、谷や低地で区切られた生活域のなかで、遺物の散布状況を確認し、遺物の時代を考え、散布地に時代性を加味することで、遺跡の立地できる環境を判断、遺跡の範囲を推定することができるわけである。

この作業を通して、散布地を整理してみるならば、今回の調査を通してとらえられた遺跡数は、全部で144ヶ所である。

各時代別に内訳と立地について記述してみたい。(時期は各遺跡の中心となる時期である)

旧石器時代の遺跡は3ヶ所。遺跡は、内陸古砂丘上の最も標高の高い地域に所在する場合が多く、現況では馬背状台地の斜面に立地している。

縄文時代の遺跡は、19ヶ所。時期別にみると、前期1ヶ所、前期7ヶ所、中期8ヶ所、後期2ヶ所、晚期0ヶ所、不明1ヶ所。

前期から中期にかけては、古地上の平坦面が多く、後期、晚期は、古地の斜面から微高地に所在する場合が多い。

弥生時代の遺跡は1ヶ所。数が少ないため立地の特徴は明確にできない。

古墳時代の遺跡は19ヶ所。時期別にみてみると、前期2ヶ所、中期4ヶ所、後期13ヶ所。また、古墳が推定を含め25ヶ所確認され、日向、高根地区には、古墳群2ヶ所確認されている。

立地は、前期は古地の斜面から微高地、中期は斜面から古地上へ、後期は古地上であることが多い。古墳はすべて、谷や湿地を見おろす高台に作られている。

奈良時代の遺跡数は5ヶ所。立地は古地上の縁辺から古地内部に広がりを見せる。

平安時代の遺跡数は、54ヶ所。その数は急増。立地は、古地内部に広がりをみせ、古状台地の全面に広がる状況も確認される。また自然堤防上にもその所在が確認される。

また、奈良・平安時代の時期区分のできない遺跡が11ヶ所、立地は、奈良・平安時代と同様である。

中世は、遺物の散布は確認されるが、遺跡としてとらえられるものが少ない。生駒1ヶ所、城館址は、伝承と記録にあるもの16ヶ所、このうち場所の確認できるもの12ヶ所、遺構の残存する城館址が9ヶ所ある。

近世では、城館址として、館林城跡、近藤陣屋があるが、遺構の残るのは館林城跡のみである。こうした、時代別の遺跡数とその立地を考えた場合、これらの遺跡の所在は、ボーリング調査に伴う環境の変遷によく合致している。

特に、現在の沖積低地が、居住域としての可能性があった奈良時代以前と以後の遺跡数や、立地の変化、沖積地底が乾燥した繩文時代後・晩期から古墳時代初期の遺跡の確認数が少ない現象、河川床から古墳時代前期～中期の遺跡の確認された事等を考えあわると、奈良時代以前の遺跡については、現在の沖積地中に埋没している可能性のあることを充分にうかがわせる。

明和村の矢島遺跡（繩文時代後・晩期）、板倉町の伊勢ノ木道跡（古墳時代中期・後期）、本市における上ノ前遺跡（繩文時代後・晩期）等の低地における発掘調査は、こういった遺跡環境を裏付ける一つの素材となつてこよう。

遺跡の立地できる環境を復元することで、本市の遺跡の所在や範囲を確認しようとした今回の調査においても、こうした地表面から見ることのできない遺跡の立地や所在まではとらえることができなかつた。今後の調査のなかで、その空白を埋めていきたいと考えている。

4. 埋蔵文化財の保護と管理

私達の現在を見なおし、将米を築きあげるために欠くことのできない一つの素材として、過去の人々の残した文化財がある。

私達は、この数多く有る文化財のなかで、本当に将来を考える素材となる文化財を認識し、それを保護し、管理して後世に伝えていく役目を担っている。

過去の人々の生活の痕跡を示す場所が遺跡であるならば、大地上はすべて遺跡であるといわざるをえない。数多い遺跡のなかで、それぞれの遺跡の現状や保存状態、遺跡の性格等を考え本当に将来を考える素材となる遺跡を保護し後世に伝えるのも私達の役目である。

今回の遺跡詳細分布調査は、こうした状況を考慮したうえで、現状に則した遺跡台帳を整備することを目的として実施したものである。

調査の結果をもとに、これらへの埋蔵文化財保護についてまとめてみたい。

今回の調査で確認できた館林市内の遺跡は、総数 144ヶ所である。これらの遺跡は、その中の土地から、過去に文化財が確認された地域、文化財が所在したと伝承されている地域、又、今後文化財が確認されてもおかしくない地域（確認される可能性を持った地域）を示している。

しかしこのなかには、すでに、建造物や構築物が作られたり、土地改良や造成等といった開発行為により土地改变の終了した土地も含まれている。

こうしたことから、今回の遺跡地図、遺跡台帳作成にあたっては、こうした土地をできるだけ省き、現段階で、調査可能部分を抽出した。

いいかえるならば、遺跡の中にあって、破壊度が少なくより保存状態の良い所、地下に文化財の眠る可能性のより高い地域であるということができる。

遺跡地図中の実線で囲われた地域はその場所を示しており、地下から文化財の発見される可能性の高い土地として、開発行為に対しては発掘調査等の対象となる地域である。

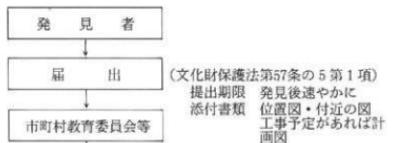
遺跡地図中のトーンで示された地域は、前述の文化財が確認されてもおかしくない地域（遺跡）や、過去に文化財の確認された地域（遺跡あと）を示しており、遺跡は、埋蔵文化財包蔵地の考え方からすれば、一定保護の対象地となっている。

今回の遺跡台帳に登載された遺跡を集計すると、遺跡総数 144 遺跡、このうち発掘調査対象地を含む遺跡は 88 遺跡で、発掘調査対象地の筆数 601 筆、面積はおよそ 51.85 ha である。

1) 周知の遺跡を土木工事により
発掘する場合の届出



2) 遺跡発見の届出



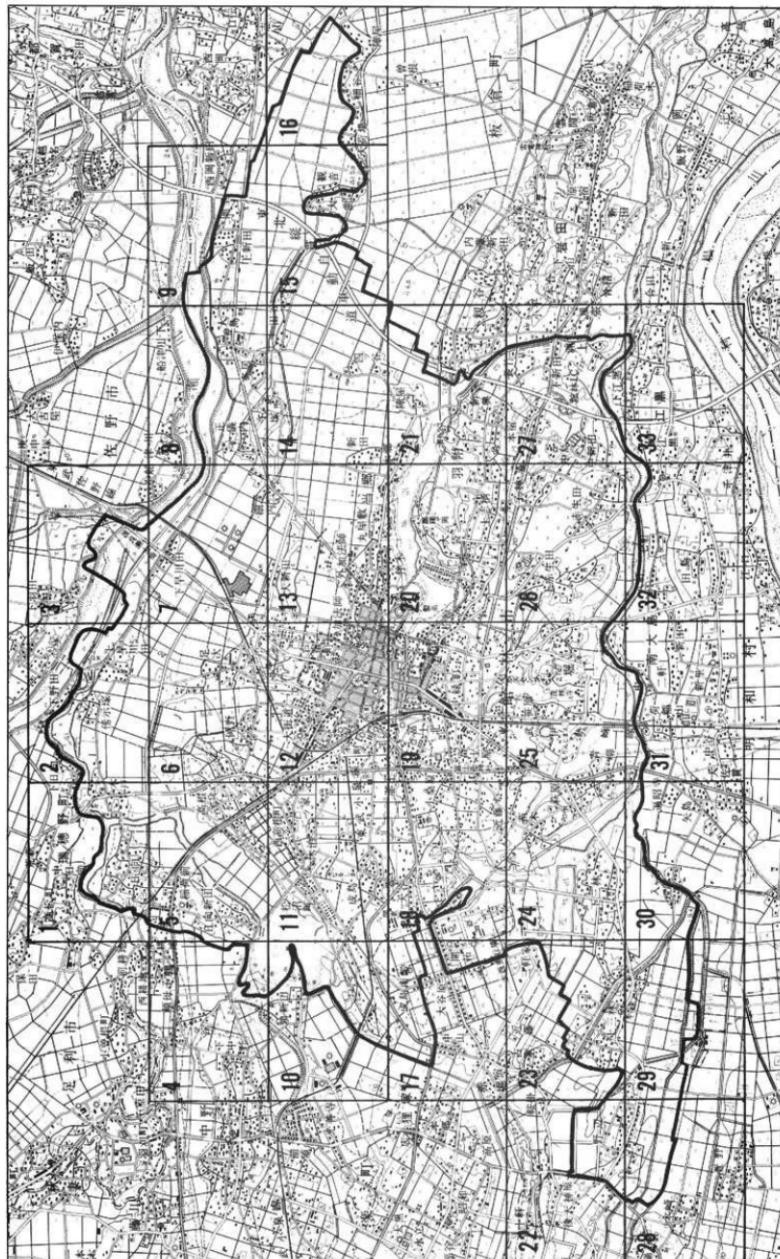
3) 遺物発見の届出



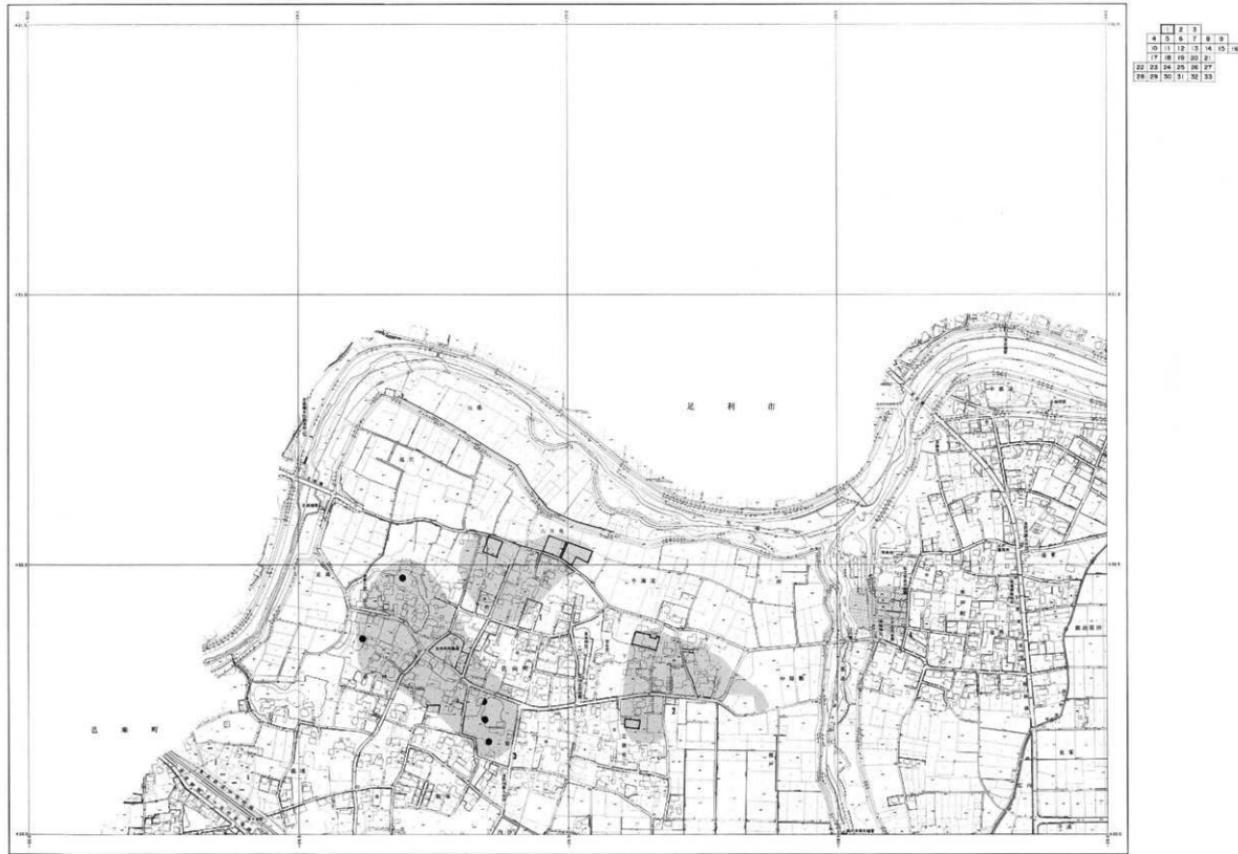
第2表 埋蔵文化財取り扱い事務の流れ

遺 跡 地 図

索引図



館林市遺跡地図 1

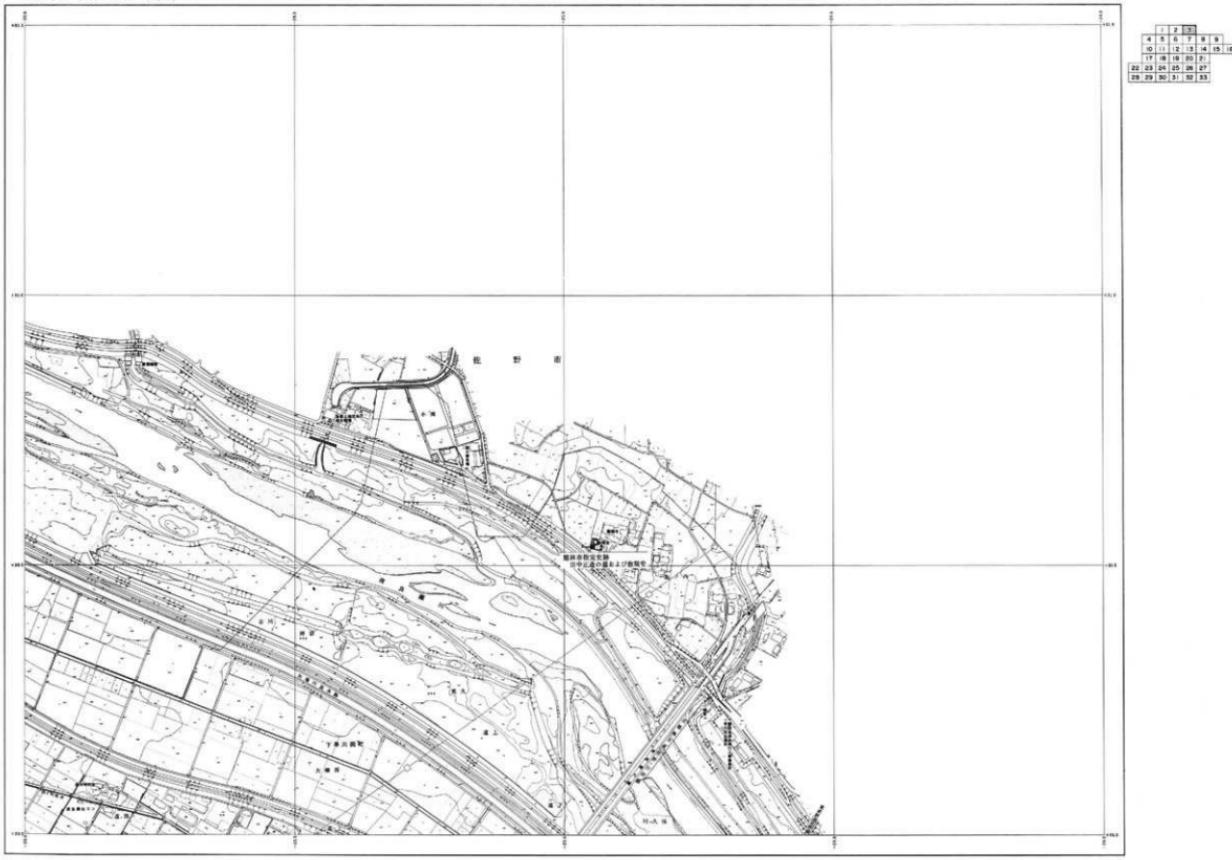


館林市遺跡地図 2

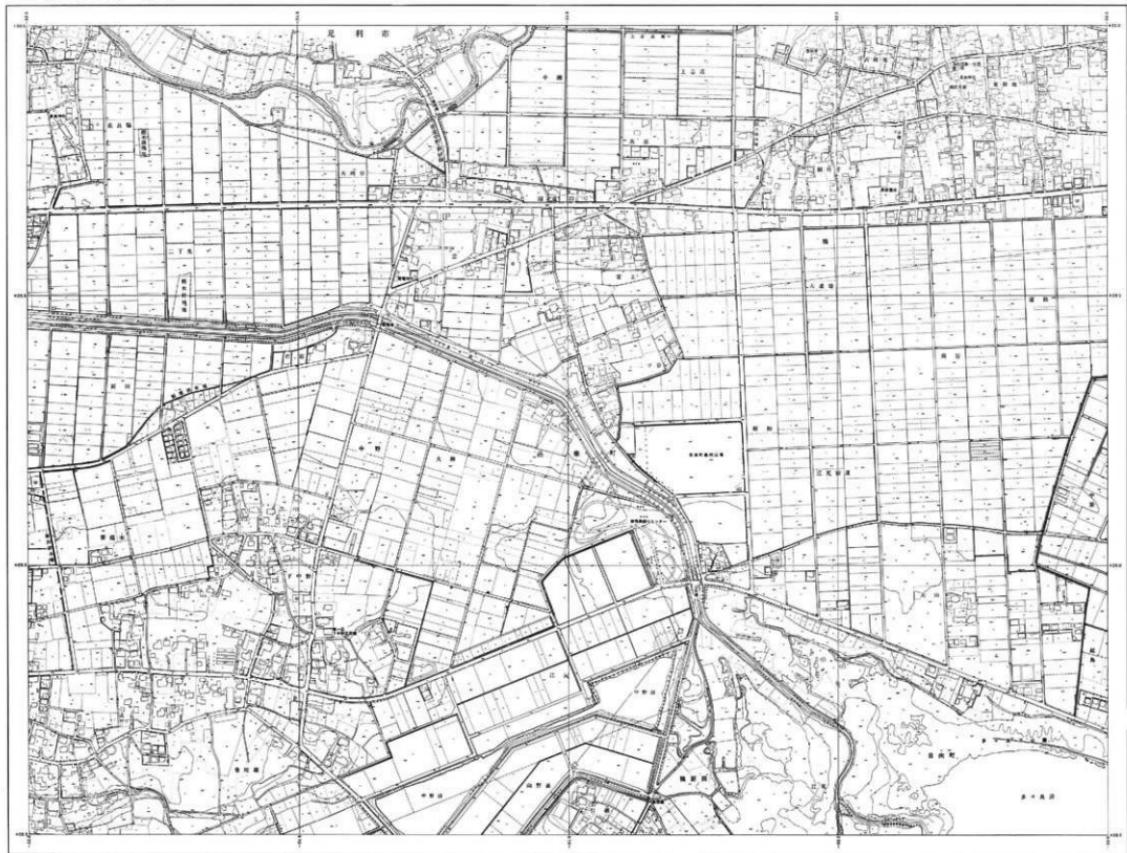


1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
31	32	33	34	35					

館林市遺跡地図 3



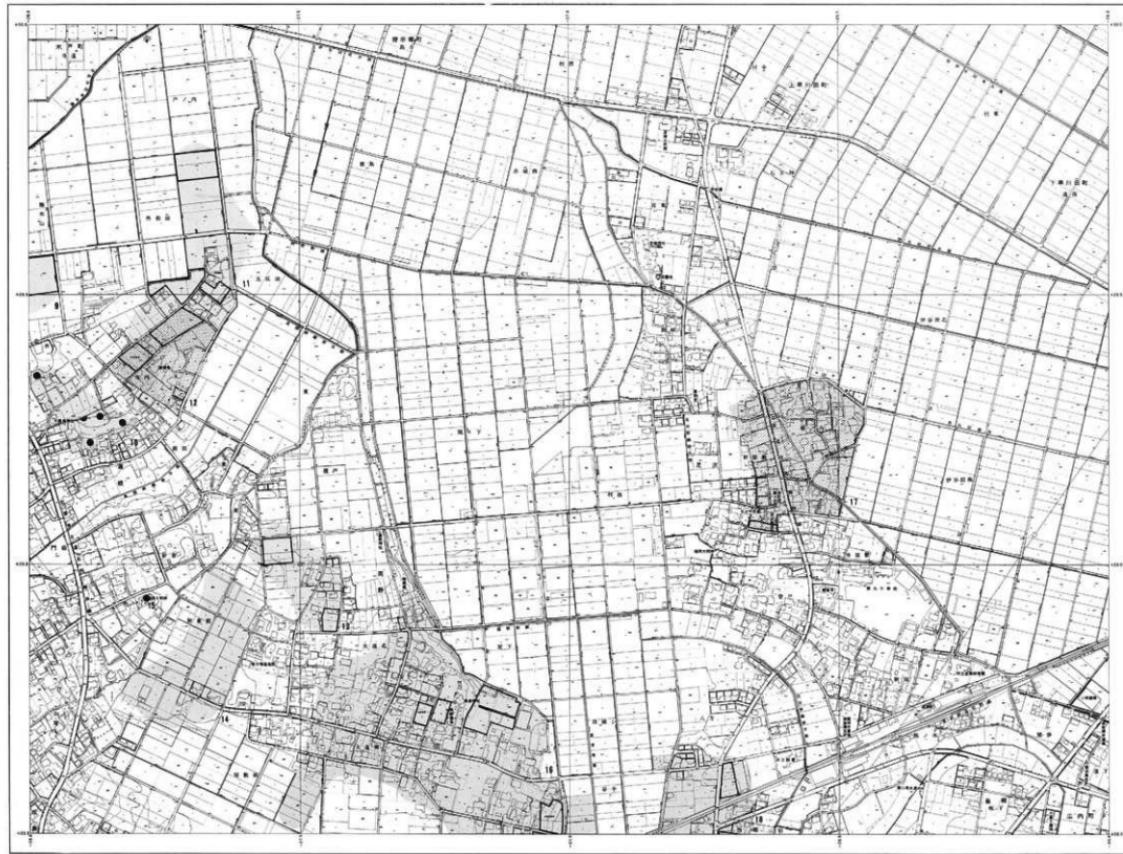
館林市遺跡地図 4



館林市遺跡地図 5



館林市遺跡地図 6

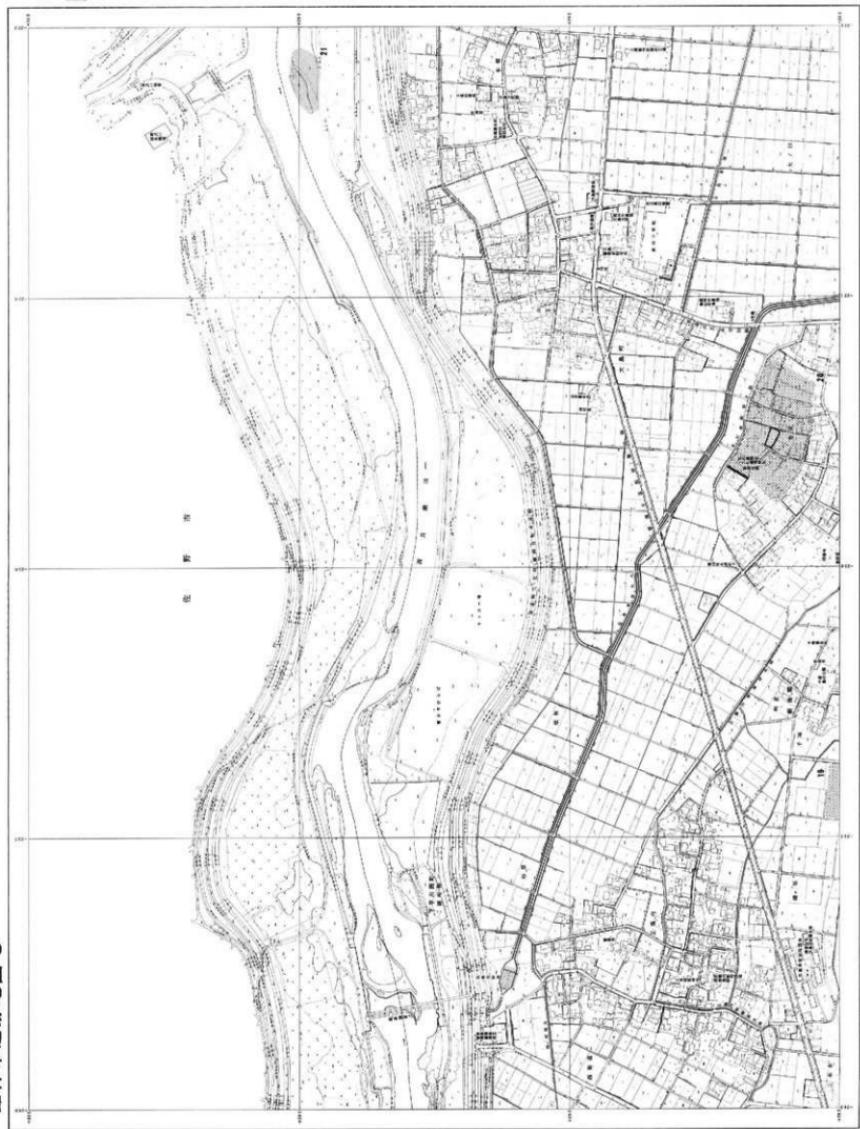


7 地図 跡跡 館林市



1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
33															

4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31
32	33	34	35	36	37	38

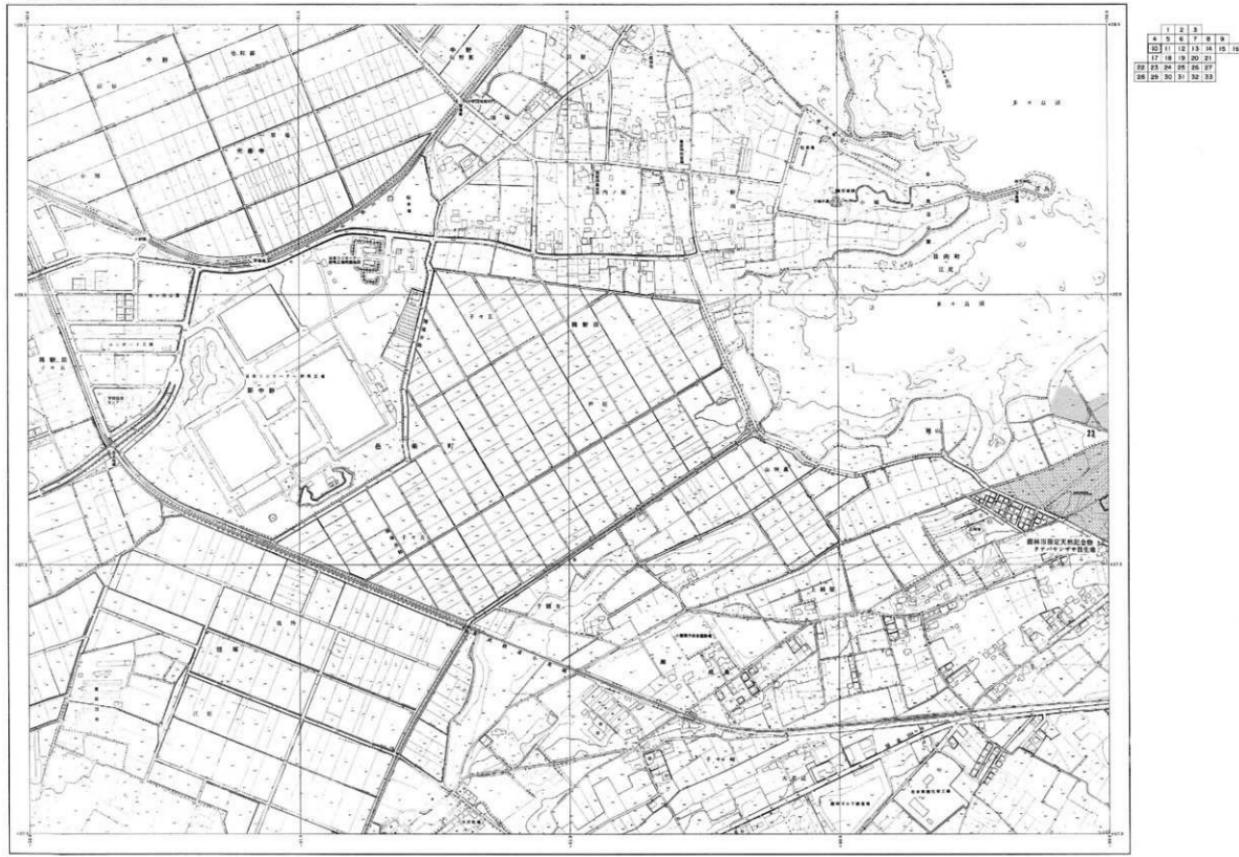


館林市遺跡地図 8

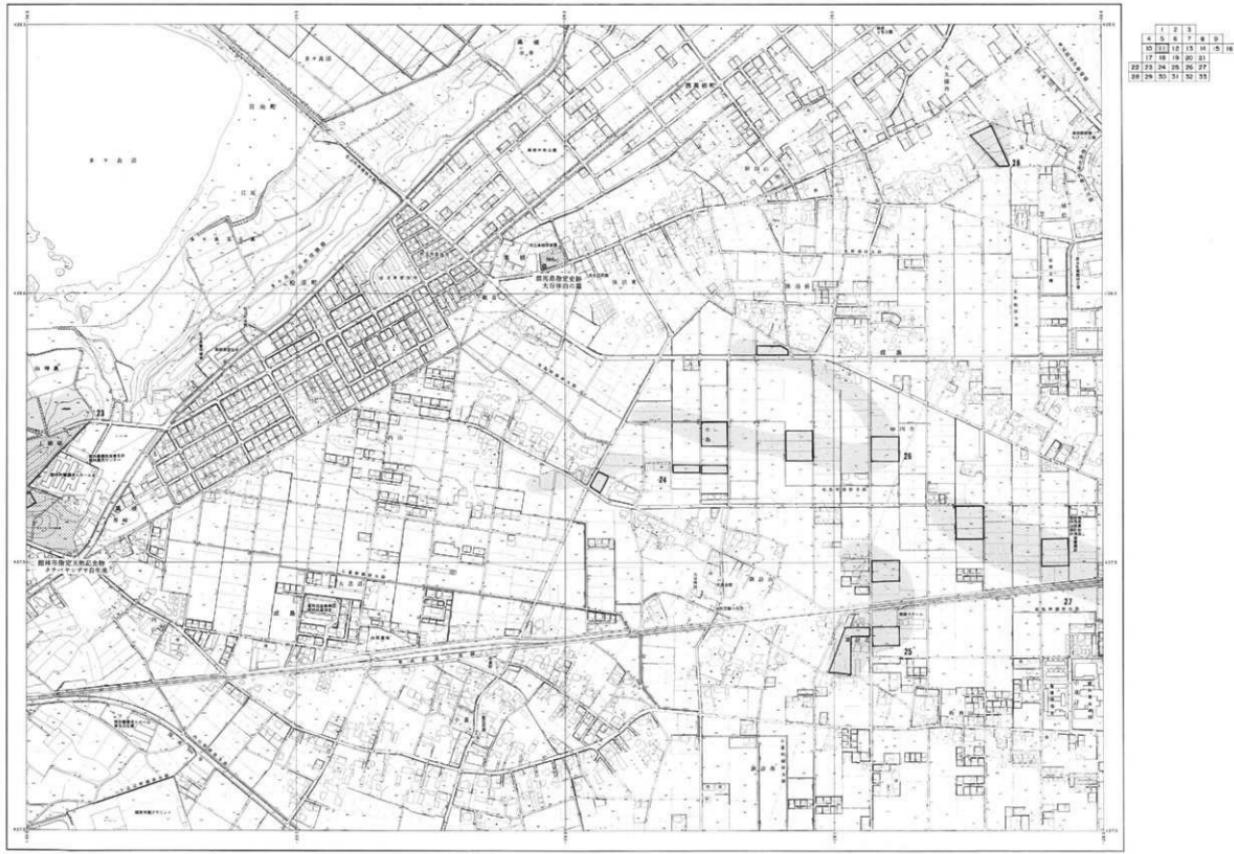
館林市遺跡地図 9



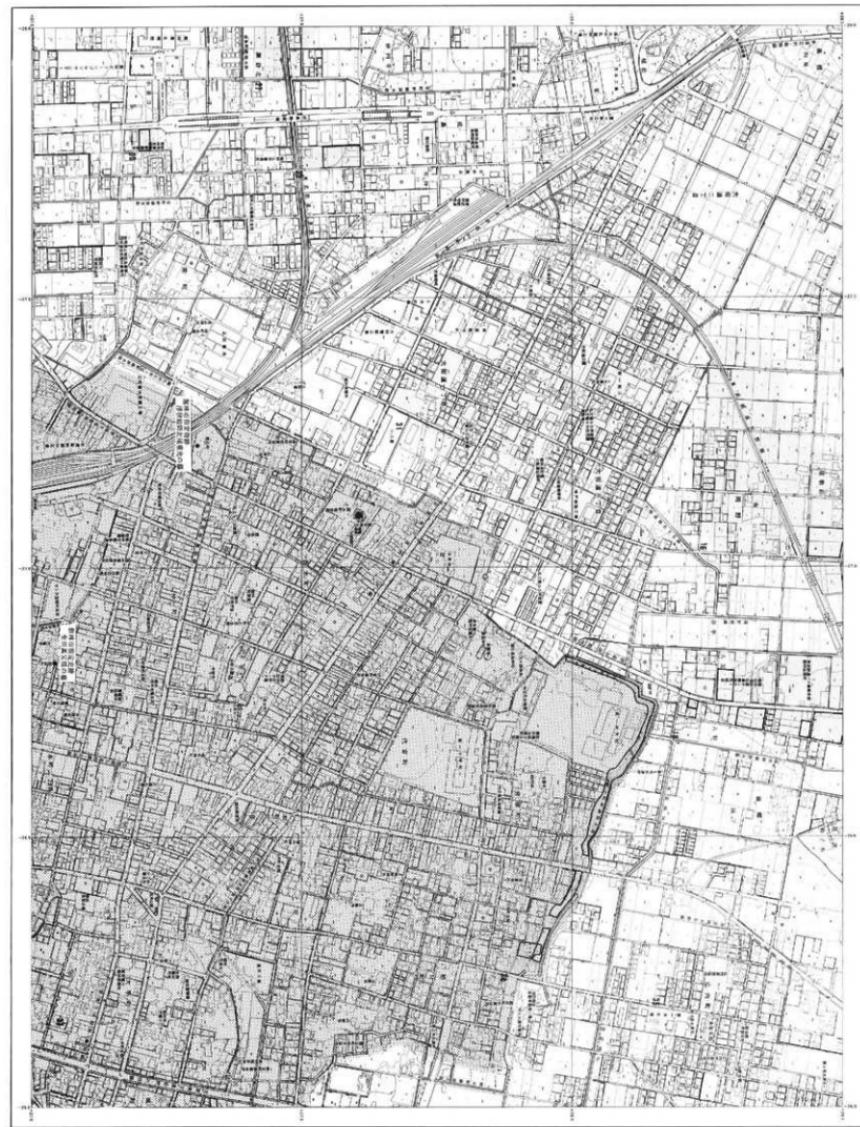
館林市遺跡地図 10



館林市遺跡地図 11



館林市遺跡地図 12



27	4	6	8
25	0	1	2
26	3	5	7
28	9	10	11
29	12	13	14
30	15	16	17
31	18	19	20
32	21	22	23

館林市遺跡地図 13



1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
28	29	30	31	32	33	34	35	36	37
37	38	39	40	41	42	43	44	45	46

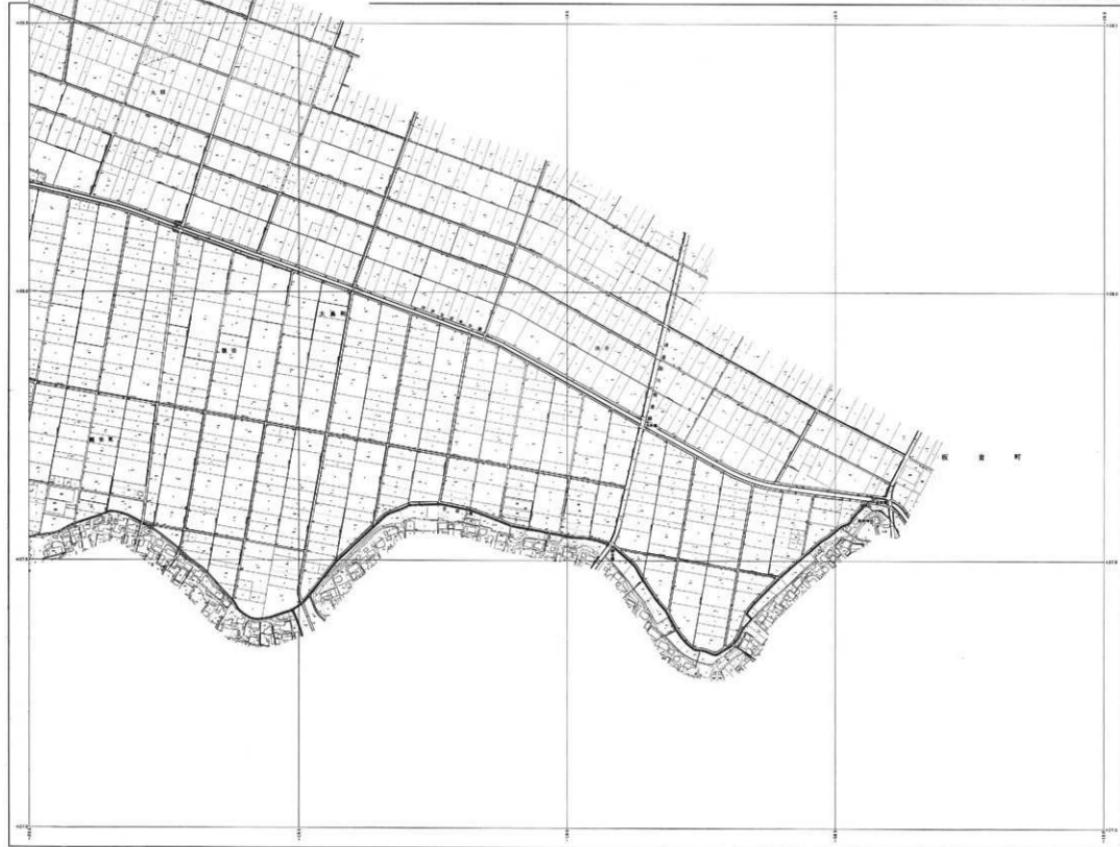
館林市遺跡地図 14



館林市遺跡地図 15



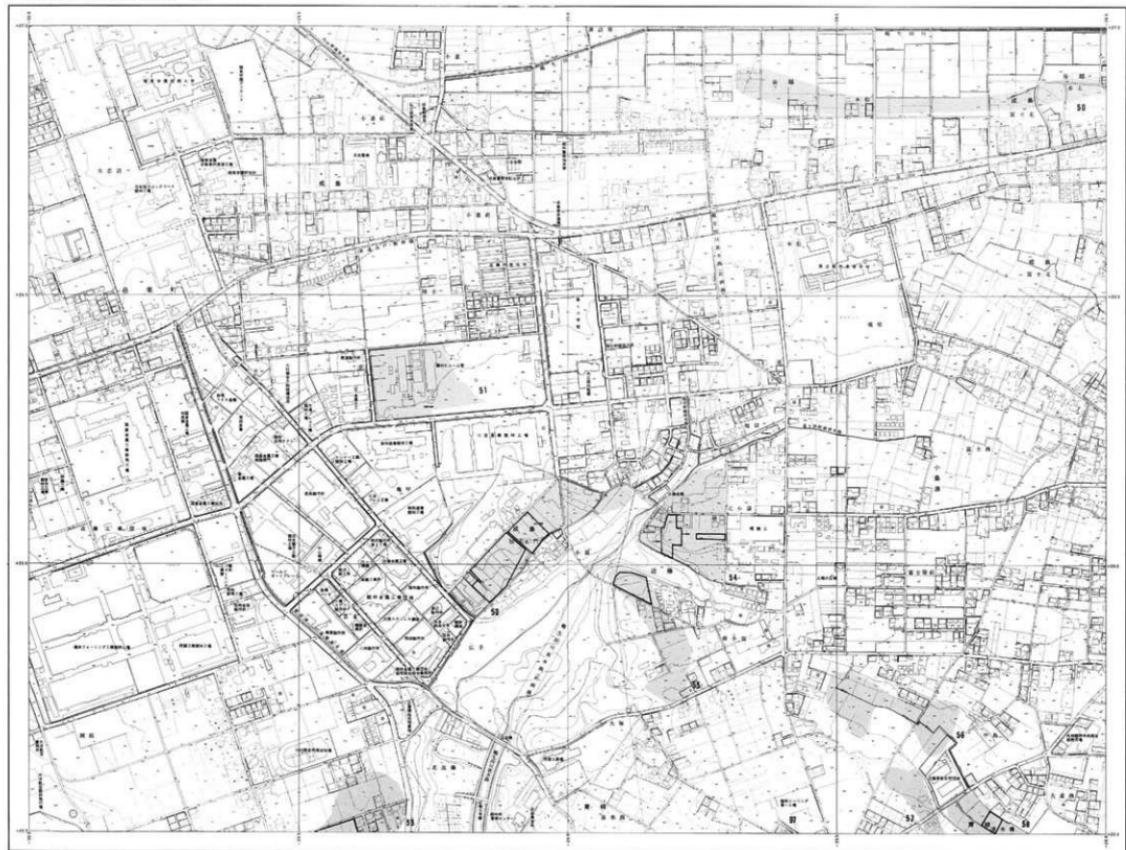
館林市遺跡地図 16



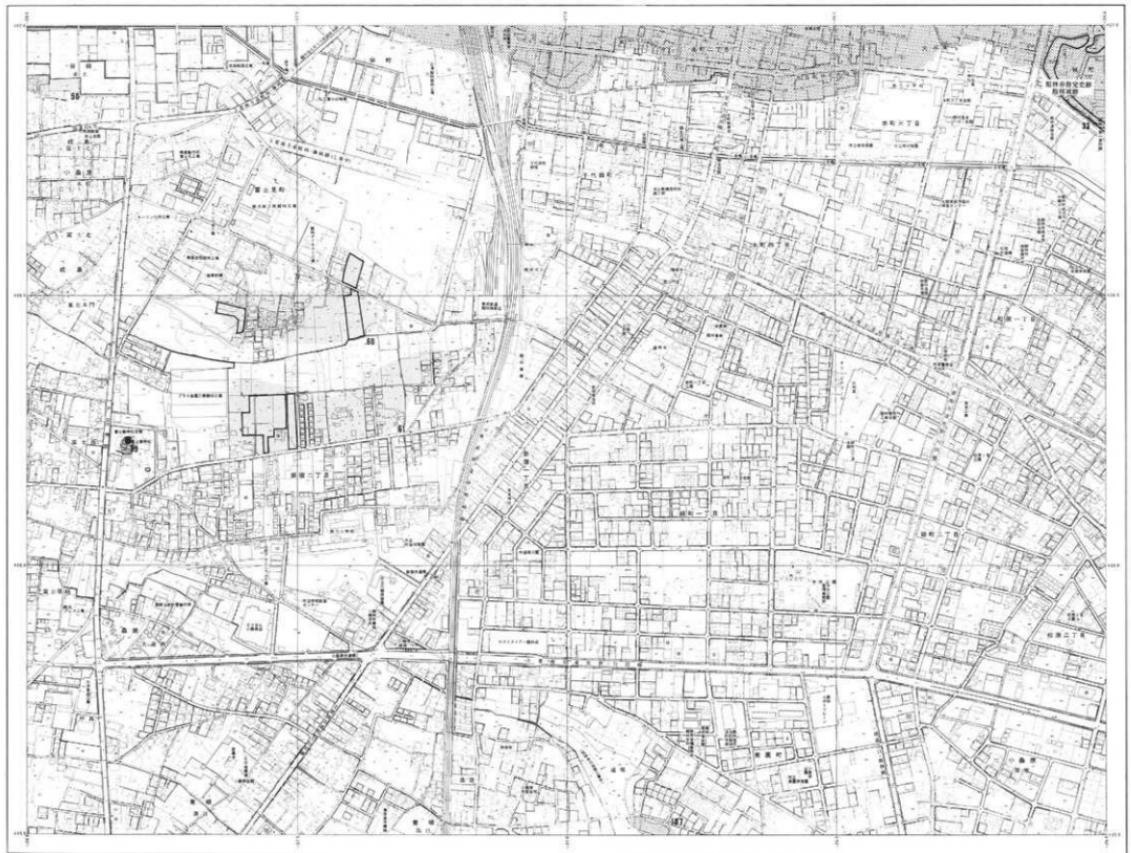
館林市遺跡地図 17



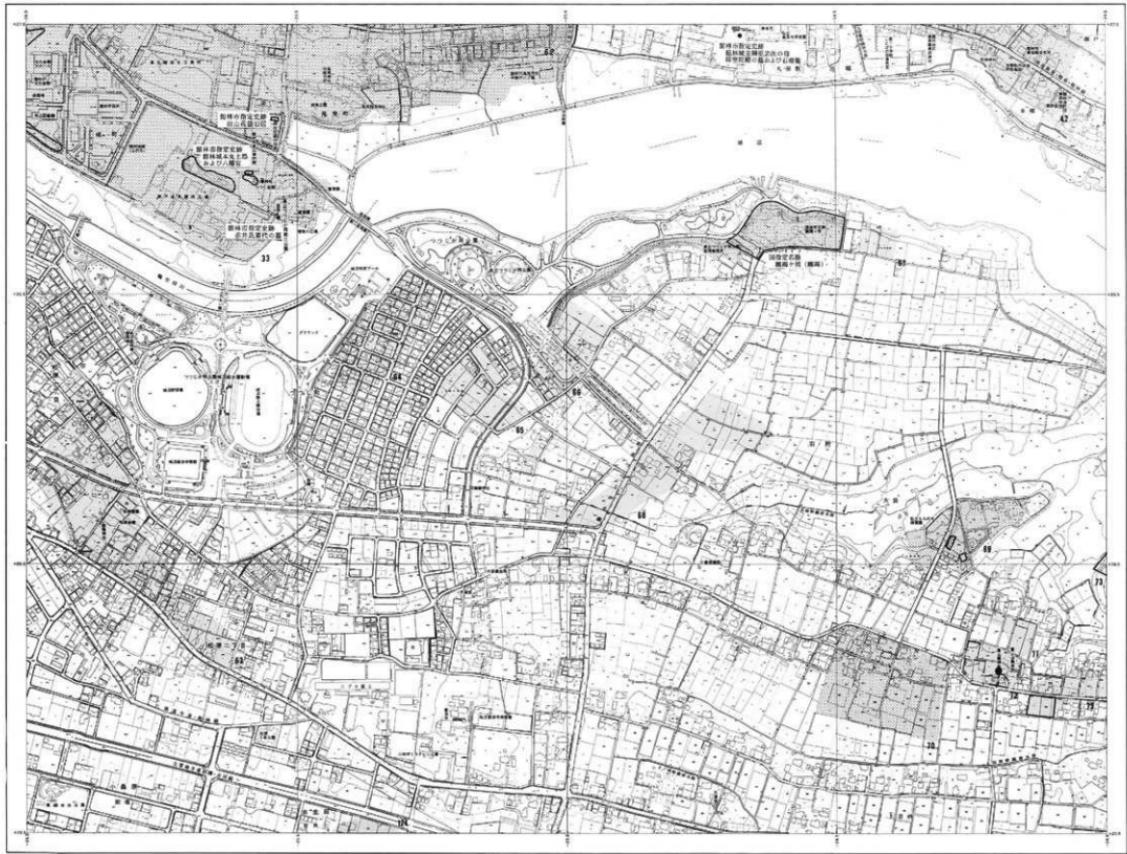
館林市遺跡地図 18



館林市遺跡地図 19

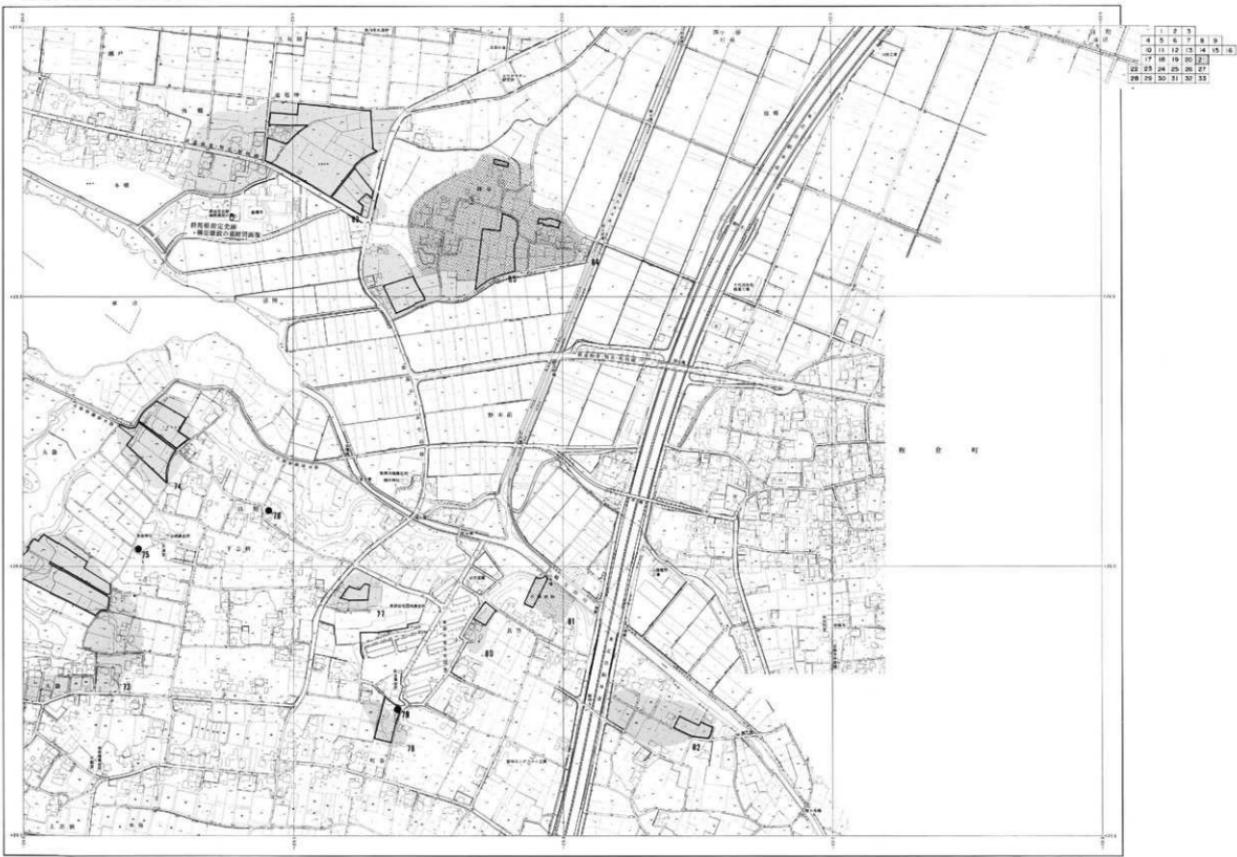


館林市遺跡地図 20

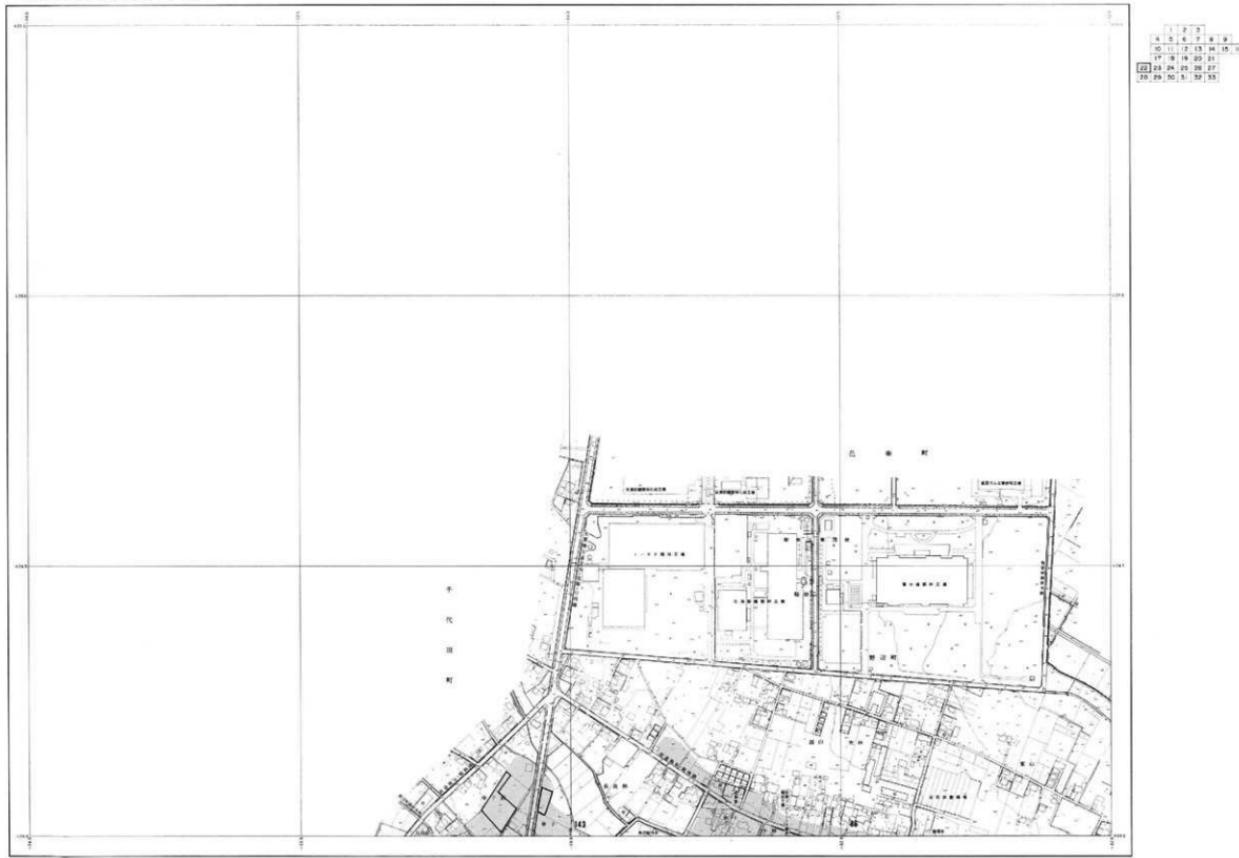


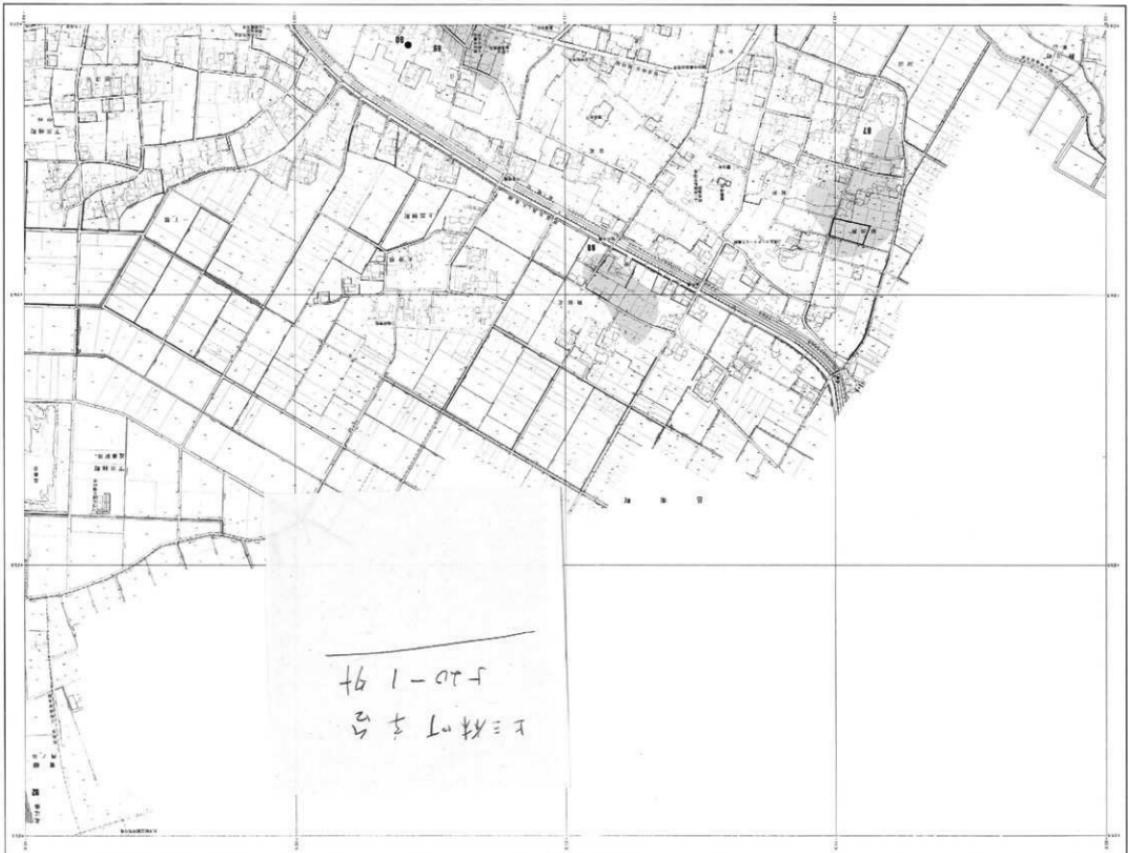
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31
32	33					

館林市遺跡地図 21



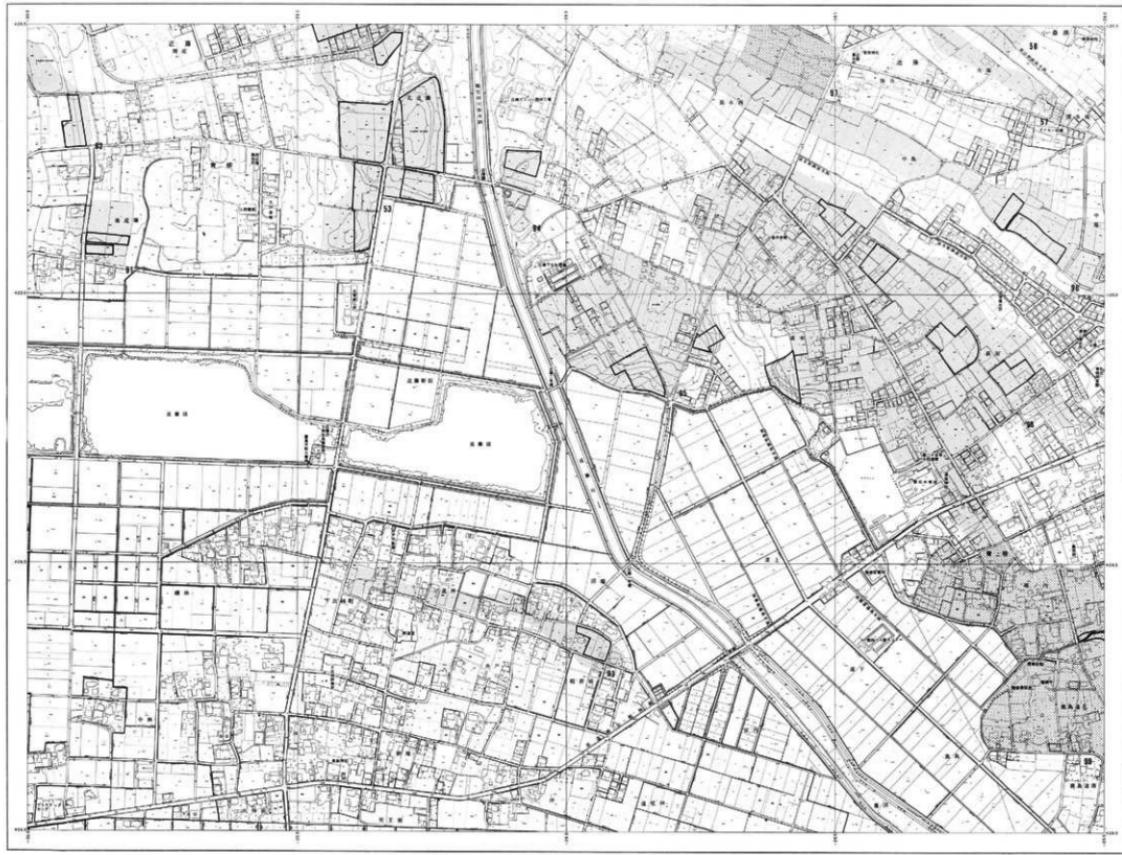
館林市遺跡地図 22





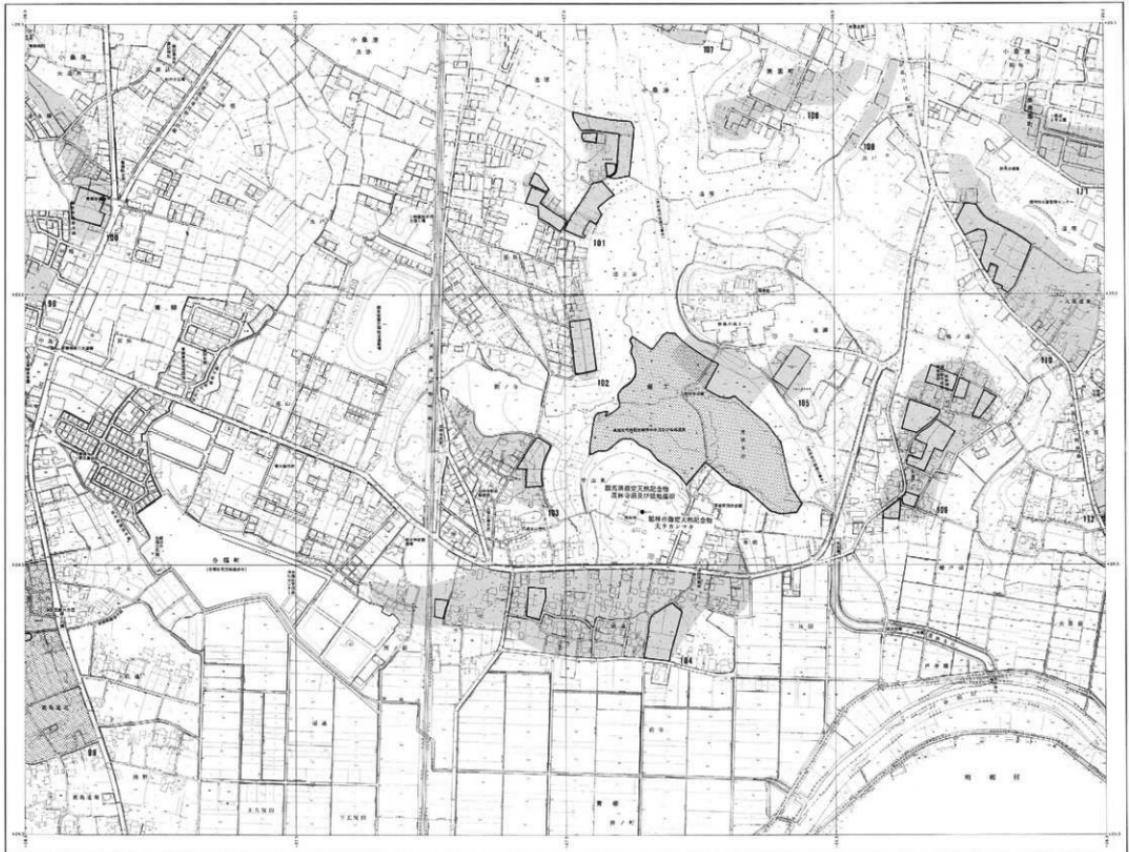
桂林市道路地图 23

館林市遺跡地図 24

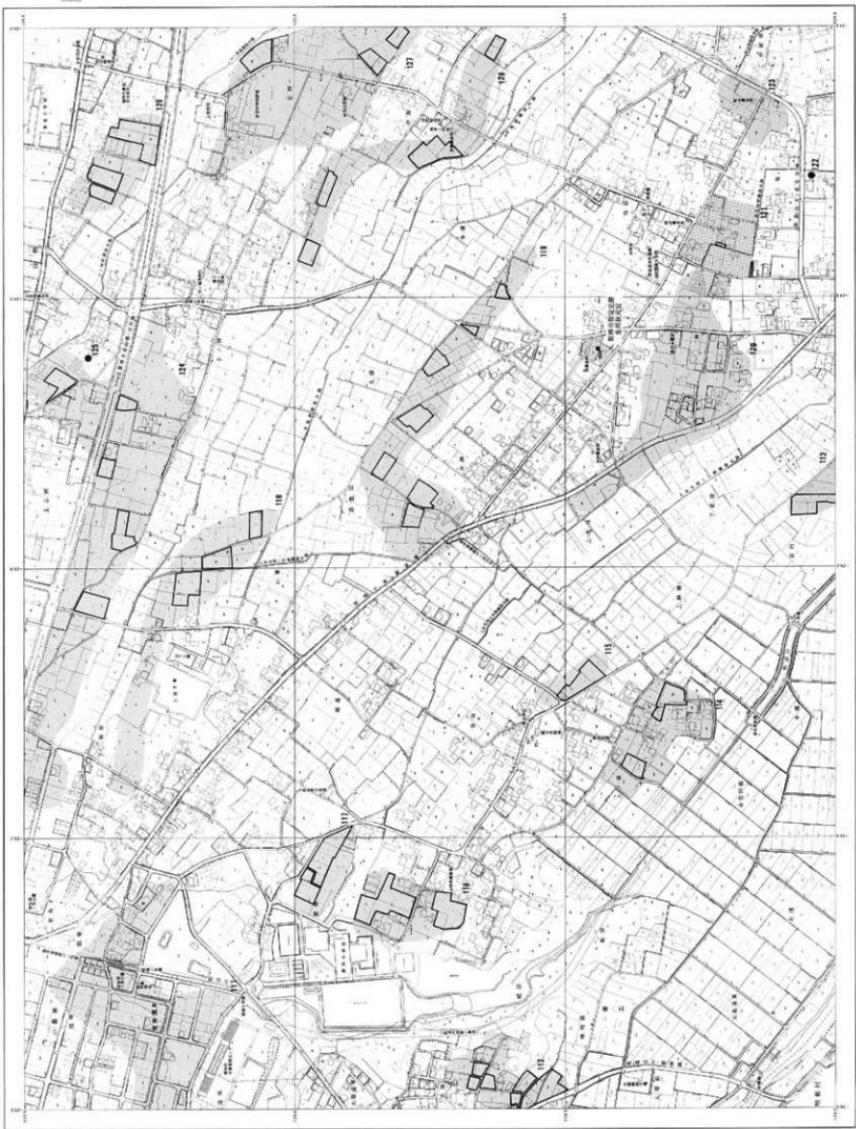


4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39
40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51
52	53										

館林市遺跡地図 25

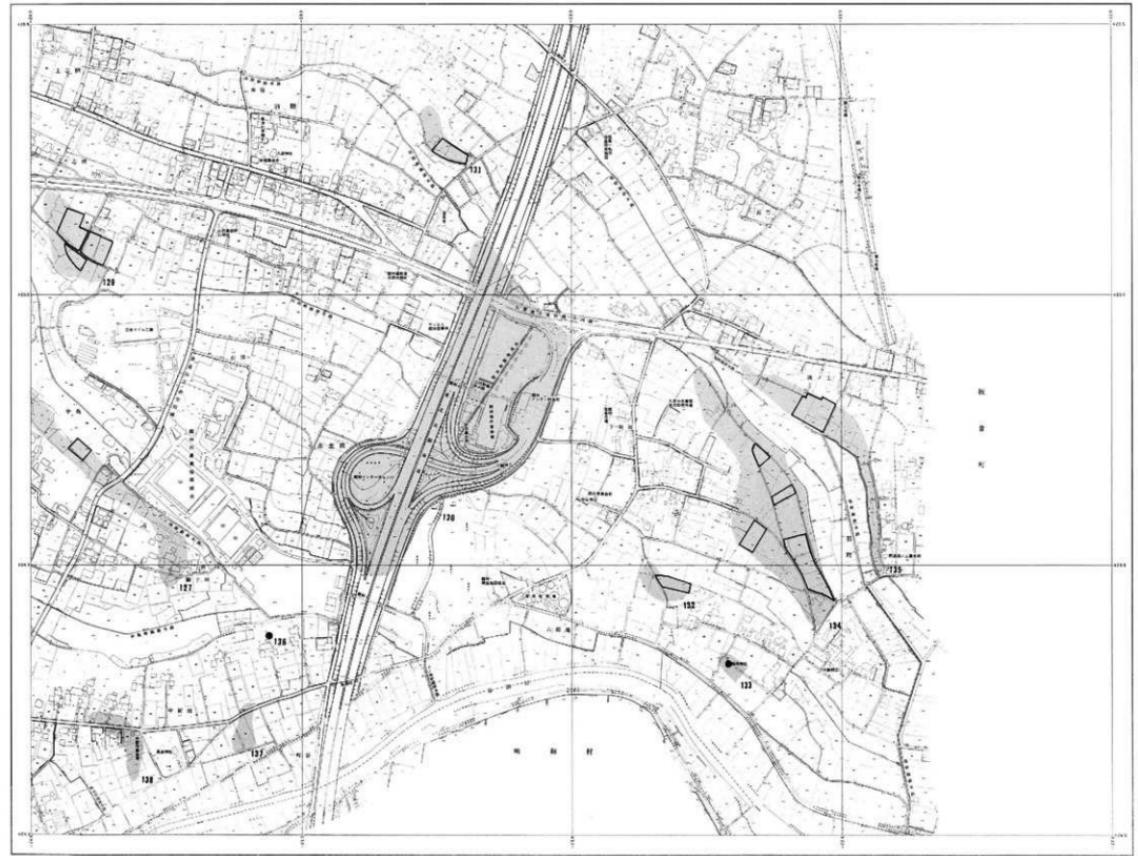


館林市遺跡地図 26



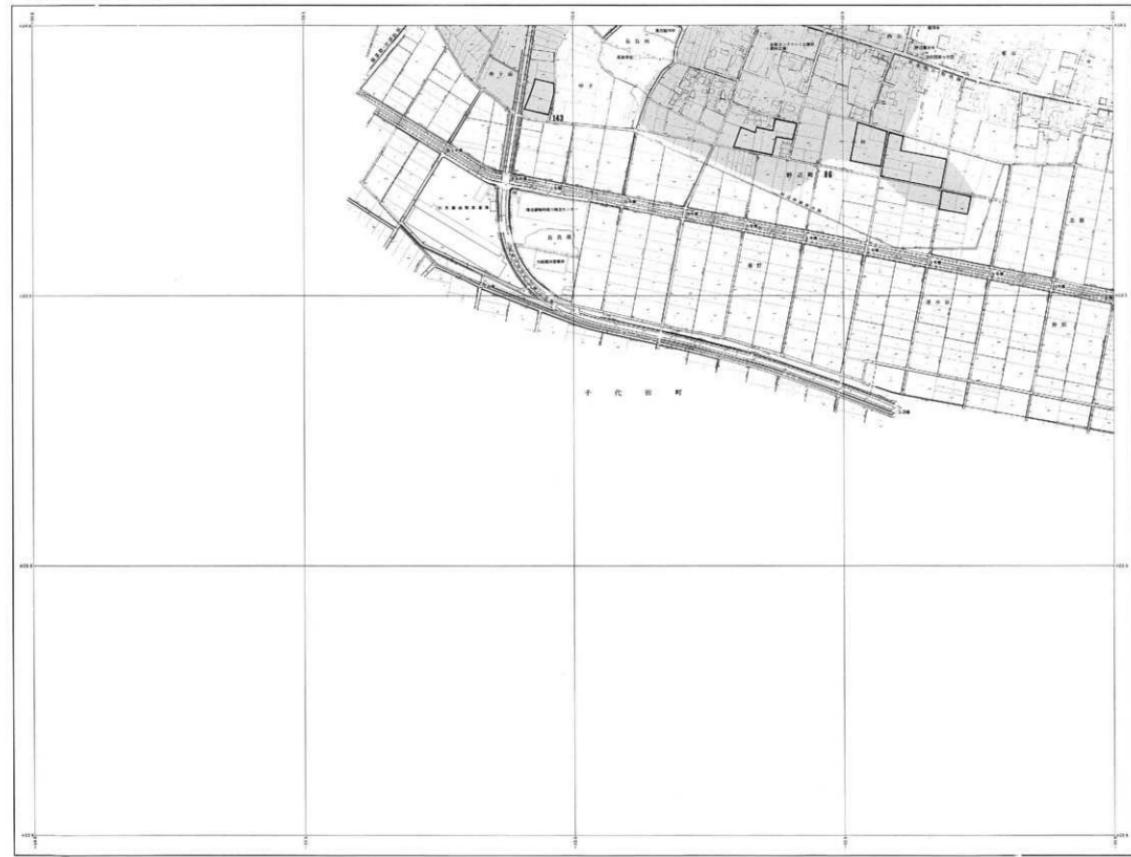
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48
49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64
65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80

館林市遺跡地図 27



4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27
28	29	30	31	32	33

館林市遺跡地図 28



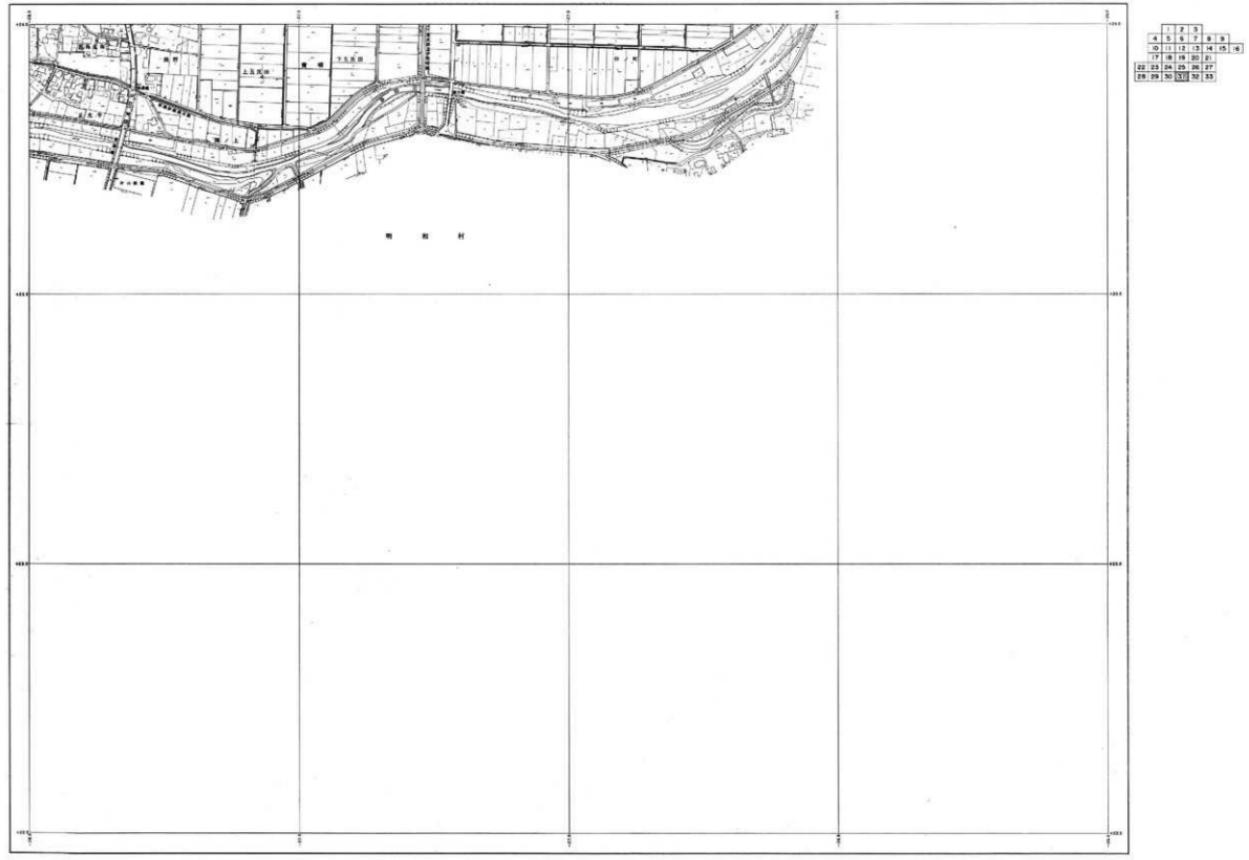
館林市遺跡地図 29



館林市遺跡地図 30



館林市遺跡地図 31

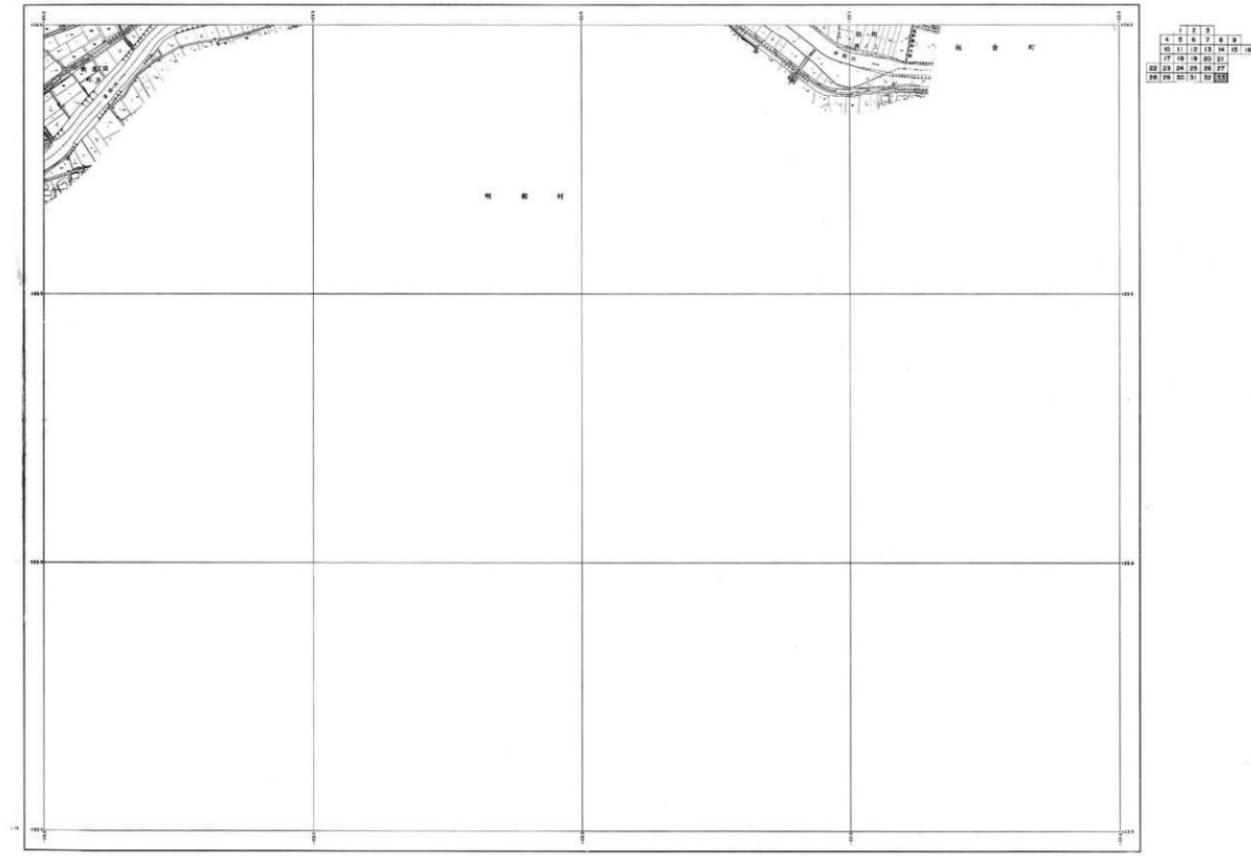


館林市遺跡地図 32



1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
41	42	43	44	45	46	47	48	49	50

館林市遺跡地図 33



遺 跡 地 番 表

『館林の遺跡』遺跡地番表49ページを次のように訂正いたします。

遺 跡 名	訂 正 の 内 容
下志柄古墳	地番欄甲1931、甲1931、乙1931、丙1931を甲1931に訂正
当郷遺跡	大字当郷右の字名空欄に(遺祖神)を加入

市台帳	県台帳	地図	遺跡名	大字	章字	幸地番	幸現状	種別	時代	備考
1		1	六月免遺跡	日向町	(六月免)	622、625、626	畠・山林	包蔵地	古墳・平安	
					(台)	748-1				
2		1	下遺跡	日向町	(下)	245-1	畠・山林	包蔵地	古墳・平安	
					(定使免)	丙271				
3		1	日向古墳群	日向町	(台)	766	畠・山林・宅地	墳墓	古墳	5基
					(最ノ神)	814-3				
					(原)	835-1-2				
4		1	木戸城跡	木戸町				城館址	中世	伝承地
5		5	日向新田遺跡	日向町				包蔵地	平安	
6	1131	5・11	多々良沼遺跡	日向町				包蔵地 (生産址)	中世	
7		5	小蒼林遺跡	高根町	(小蒼林)	1052-86～90・104～106	畠	包蔵地	縄文・土師	
8	1128	5	山神脇遺跡	高根町				包蔵地	旧石器	破壊
9		5・6	梅木山遺跡	高根町	(梅木山)	1891		田	包蔵地	縄文・土師
10		6	高根古墳群	高根町	(台)	1171-1・2	山林	墳墓	古墳	5基
					(寺内)	125、126、129、130-1・2				
11	1126	6	高根・外和田遺跡	高根町	(外和田)	1959、1960、1967、1969、1970、1978	畠・田	包蔵地 住居跡	縄文・古墳 ～平安	
1127					(寺内)	108-1・3・5・7・8				
12		6	高根城跡	高根町				城館址	中世	伝承地
13		6	大道北遺跡	岡野	大道北	389、390-1・2、391、495-1	畠	包蔵地	古墳～平安	
14		6	新倉前遺跡	岡野				包蔵地	奈良～平安	
15		6	高根稻荷大明神古墳(推定)	高根町				墳墓	古墳	
16	1135	6・12	岡野・屋敷前・岡遺跡	岡野	大道北	560-4・5、562-4・5、586～589 603～606	畠・山林	包蔵地	縄文・古墳 ～平安	
1136					宮下	585				
1137					大道南	129、130-1				
					屋敷前	127、128				
17		6	蛇屋敷跡	足次	寺屋敷	145、甲146	田・畠	城館址	中世	伝承地・館濠有
18	1134	6・12	八方遺跡	岡野	八方	19-1・2、866-1、10-5	畠・宅地	集落跡	古墳～平安	
					当郷	八形				
						3237、3238、3242-1、3243、 3244				

市台帳	県台帳	地図	遺跡名	大字	幸字	幸地番	幸現状	種別	時代	備考
19		8・14	磯ヶ原城跡	大島町				城館址	中世	伝承地
20	1101	8	北大島館跡	大島町	(寄居)	4735-1・2、4737	畠・宅地	城館址	中世	伝承地、館濠有
21		8	大島下悪途1遺跡	大島町						
22		9	大島下悪途2遺跡	大島町				包蔵地	古墳～平安	
23	1132	10・11	上稻屋遺跡	成島				包蔵地	縄文	遺物採取できず
24		11	牛島遺跡	成島	牛島	1600-1、1622-1、1628	畠	包蔵地	平安	
25		11	諏訪北遺跡	成島	諏訪北	316、355	畠・田	包蔵地	平安	
					妙円寺	1674				
26		11	妙円寺1遺跡	成島	妙円寺	1650、1680	畠	包蔵地	平安	
					牛島	1631				
					休泊前	3198-1				
27		11・12	妙円寺2遺跡	成島	妙円寺	1731、1732、1769-1～3、1770	畠	包蔵地	平安	
28		11	二ツ塚遺跡	成島	二ツ塚	2598-1	畠	包蔵地	平安	
29		12	天神遺跡	成島	天神	1930、1934	畠	包蔵地	平安	
30		12	栄町遺跡	栄町		199	畠	包蔵地	平安	
31	1133	12	大街道遺跡	大街道三丁目				包蔵地	縄文・平安	宅地化
32	1093	12	愛宕神社古墳	西本町		甲2440	境内地	墳墓	古墳	
33	1094 1095 1097	12・13 19・20	館林城跡・城下町	台宿町		1934-8・12・21・24・25・37～39・41～44	原野・山林 宅地・公園 学校用地 畠	城館址	江戸	
				朝日町		1155-1・2・8・12、甲1155-1丙・1乙、 甲1155-2・4甲・4乙				
				城町		甲23-1、甲26-2～8、674-2・15・24 1-3・15、乙674-7・9～12、甲2930-1				
				尾曳町		216-28・33、272-1、293-1・2				
				加法師町		2147、2870-1・3、2784				
34	1092	12	朝日町遺跡	朝日町		1158～1163	畠	包蔵地	縄文	
35		12	広内町1遺跡	広内町				包蔵地	平安	宅地化
36		13	広内町2遺跡	広内町				包蔵地	平安	宅地化
37		13	若宮遺跡	当郷				包蔵地	平安・土師	宅地化
38		13	城町遺跡	城町				包蔵地	奈良～平安	宅地化
39	1096	13	加法師遺跡	加法師町		2174-3～7、2438、2439、2463	畠	包蔵地	縄文・奈良～平安	
40		13	尾曳町1遺跡	尾曳町		2018-1、2022-1	畠・宅地	住居跡	古墳	

市台帳	県台帳	地図	遺跡名	大字	幸字	幸地番	幸現状	種別	時代	備考	
41	1099	13	善長寺付近遺跡	当郷	丸屋敷	1975-2・5	山林・畠	墳墓・包蔵地	古墳	市指定史跡山王山古墳を含む	
42		13・20	当郷本郷遺跡	当郷				包蔵地	平安	宅地化	
43		14	当郷新田古墳(推定)	当郷				墳墓	古墳		
44		14	当郷新田遺跡	当郷				包蔵地	平安	宅地化	
45		14	道祖神遺跡	当郷	道祖神	35	畠	包蔵地	古墳・平安		
46		14	四ツ谷袖屋遺跡	四ツ谷	袖屋	398-1・2、420	畠	包蔵地	古墳・平安		
47		14・21	村前遺跡	四ツ谷				包蔵地	古墳・平安		
48	1129	17	水溜第一地点遺跡	成島				包蔵地	旧石器	調査済	
49	1130	17	水溜第二地点遺跡	成島				包蔵地	旧石器	遺物採取できず	
50		18・19	二本松遺跡	谷越				包蔵地	縄文・平安	宅地化	
51	1115	18	近藤障子遺跡	近藤				包蔵地	縄文・古墳	破壊	
52	1111	18	伝右エ門遺跡	成島	伝右エ門	2899-15・17・19・21・23・25・27 ・29・31・64・65	畠・雑種地	包蔵地・集落跡	縄文・古墳土師		
53	1112	18・24	北近藤第一地点遺跡	青柳	北近藤	2507-1~3、2508、2509、2510-1、 2511-1、2512-1、2513-1、2514-1、 2515-1~2、2517-1~5・6、2518-1~4 ・5、2519-1~3、2520-1~3、 2521-1~3、2523-1~3、2524-1~3、 2525、2526-1~3	畠・山林 公衆用道路	包蔵地・集落跡	縄文・古墳・平安		
				青柳	南近藤	2676、2677、2678-1、2679 2680-1~3					
				近藤	開拓	829-2~7・8、833-1					
54	1116	18	北小袋遺跡	近藤	北小袋	171-56・75・77・80	畠	包蔵地	縄文		
55		18	小袋遺跡	近藤	小袋	155-1~2	畠	包蔵地	縄文・古墳	平安	
56		18	中島遺跡	小桑原				包蔵地	平安		
57		18・24	大塚遺跡	近藤				包蔵地	平安		
58		18・24	清水橋遺跡	青柳	清水橋	1513	畠	包蔵地	平安		
59	1117	19	富士嶽神社古墳	小桑原	富士西	1127-1	境内地	墳墓	古墳		
60		19	富士見町遺跡	富士見町		37、635、636-1、645-1~2、646-1 748-1~2、749	畠	包蔵地	平安・土師		
61		19	新宿二丁目遺跡	新宿二丁目		151-1、152-1、153-1~3・5、154-3~4	畠	包蔵地	土師		

市台帳	県台帳	地図	遺跡名	大字	幸字	幸地番	幸現状	種別	時代	備考
62		20	尾曳町2遺跡	尾曳町				包蔵地	古墳・上師	宅地化
63	1124	20	屋敷添遺跡	松原一丁目・二丁目				包蔵地	縄文・奈良～平安	宅地化
64	1125	20	三軒屋遺跡	つづじ町				包蔵地	縄文・古墳	破壊
65	1103	20	大袋II遺跡	花山町				包蔵地・集落跡	縄文	調査済
66	1102	20	大袋I遺跡	花山町				包蔵地	縄文	遺物採取できず
67	1104	20	花山東遺跡	花山町				包蔵地	縄文	遺物採取できず
68		20	大袋5遺跡	花山町				包蔵地	平安	
69	1108	20	大袋城跡	花山町	(大袋)	2298-1・5、2268-1	山林	城館址	中世	伝承地 土墨有
70		20	青山屋敷跡	花山町				城館址	中世	伝承地
71		20	大袋3遺跡	花山町				包蔵地	平安	
72	1107	20	富士山古墳	花山町	(大袋)	2210-1、2212-2	塙勾地・山林	塙墓	古墳	
73	20・21	大袋4遺跡	花山町	(大袋)	2163-1・2、2188-1・2		畑・山林	包蔵地	縄文・平安	
			楠町	(下志柄)	1898、1899、1900-1・2、乙1901、1902 1912、1913-1・1、1914-1・2、1916-1・2、1901-1・3		宅地・田			
74	1105	21	下志柄遺跡	楠町	(下志柄)	甲1965、1966、1961、1968～1970	畑・田	包蔵地	縄文	
75		21	下志柄古墳	楠町	(下志柄)	甲1931、甲1931、乙1931、丙1931	山林	塙墓	古墳	
76	1106	21	町谷1号墳	楠町	(町谷)	1300	山林	塙墓	古墳	町谷古墳
77		21	町谷1遺跡	楠町	(町谷)	1180	畑	包蔵地	古墳・土師	
78		21	町谷2遺跡	羽附旭町				包蔵地	古墳・平安	
79		21	町谷2号墳	羽附旭町	(町谷)	961、962-1～3	山林・畑・宅地	塙墓	古墳	
80		21	街谷3遺跡	羽附旭町	(町谷)	1194	山林	包蔵地	平安	
81	1109	21	白旗城跡	羽附旭町	(町谷)	1218-1、1221	山林	城館址	中世	伝承地 土墨有
82		21	長竹遺跡	羽附旭町	(長竹)	1059-2、1062、1064-1	畑	包蔵地	土師	
83	1100	21	当郷遺跡	当郷		85、89、90-2・3、91-2	畑	包蔵地	古墳～平安	
				楠町	(陣谷)	3711-1・2、3712-1、3713～3718 3721～3724、3729-1、3730-1、3731-1				
84		21	陣谷遺跡	楠町	(陣谷)	3741-2・4、3742、3828-1～4、3829～3831	畑	包蔵地	古墳～平安	
85		21	羽附陣屋跡	楠町	(陣谷)	3823-1、3842-2	山林・宅地	城館址	中世	伝承地 土墨有
86		22・28	小林遺跡	野辺町	(小林)	440-1、441-1・2、442-2 443-1～3、444、446、469-1～6 479-1・3、464、465、466-1・2	畑	包蔵地	古墳～平安	

市台帳	県台帳	地図	遺跡名	大字	卒字	所在地番	現状	種別	時代	備考
87		23	新田西遺跡	上三林町	(新田西)	1580-1~3、1581-2・3	畠	包蔵地	平安	
88		23	新田北遺跡	上三林町				包蔵地	平安	
89		23・29	台遺跡	上三林町				包蔵地	平安	
90		23	上三林古墳(推定)	上三林町				墳墓	古墳	
91		24	南近藤遺跡	青柳	南近藤	2599-40・84	畠	集落跡	古墳・平安	
92	1113	23・24	北近藤第二地点遺跡	青柳	北近藤	2578-4～6	畠	包蔵地	土師	
93		24	稻荷前遺跡	下三林町	(稻荷前)	1240-1・2、1241、1242	畠	包蔵地	平安	
94		24	苗木西遺跡	青柳	苗木西	2449	雜種地	包蔵地	平安	
95	1114	24	苗木遺跡	青柳	苗木	1760-2・3、1761-4・57	畠	包蔵地	古墳・平安	
					苗木西	2447-135・136・140～143				
96		24・25	青柳中島遺跡	青柳	中島	1548～1551、1569～1571	畠	包蔵地	奈良～平安	
97		18・24	近藤陣屋跡	近藤				城館址	近世	伝承地
98		24	萩原遺跡	青柳	中島	甲 1717、1719-1・3・5	畠・山林・宅地	包蔵地	繩文・平安	
					苗木	1751-45～52				
					萩原	1807、1809-7、1835-2、1853-1～5 1866、1868、1869				
99	1118	24・25	青柳城跡	青柳	堀之内	乙 1956-2、1956-3・5	畠・宅地	城館址	中世	伝承地 土塁有
					鹿島道北	677-1、乙 677				
100		25	中堤遺跡	青柳	中堤	1448-4、1449-1、1452、甲 1455 1456-1	畠	包蔵地	平安	
101	1122	25	笠原遺跡	堀工町	(笠原)	1870-4、1871、1880-3・9 1881-1、1882-1～10、1873-2	畠・山林・雜種地	包蔵地	繩文・平安	
					(法正谷)	1848-1・2、1849、1850-1・2、1857-1・3				
					(法正谷)	1749～1751				
102		25	法正谷遺跡	堀工町	(法正谷)		畠	包蔵地	平安	
103		25	中山東遺跡	堀工町	(中山東)	1614～1616	畠	包蔵地	平安	
104		25	前通遺跡	堀工町	(前通)	1470-1、1471-1、1472-1・2、1473-1475 1511-2・7、1528-1	畠	包蔵地	平安	
105	1121	25	下編工道満遺跡	堀工町				包蔵地	古墳～平安	
106		25	美園町遺跡	美園町				包蔵地	繩文・平安	宅地化
107	1123	19・25	腰巻遺跡	美園町				包蔵地	繩文	遺物採取できず
108		25	啗戸遺跡	堀工町				包蔵地	繩文	

市台帳	県台帳	地図	遺 跡 名	大 字	壇 字	幸 地 番	幸 現 状	種 別	時 代	備 考
109		25	咄戸沼遺跡	堀工町	(咄戸沼)	641-1、643、687-1、692-1、725、 726、727-1・2、729-1・2	畠・山林 宅 地	包 藏 地	縄文・土師	
					(熊野浦)	733-2甲、733-乙、736-1・3、741				
110	1120	25	大原道東遺跡	堀 工 町	(大原道東)	817-1、818～822、823-1、828-1、 829、830	畠	包 藏 地	縄 文	
111		25・26	南美園町遺跡	南美園町				包 藏 地	縄文・土師	宅地化
112		25・26	神明前遺跡	堀 工 町	(神明前)	171-1・2、172-1～3、173-1～3	畠・宅地	包 藏 地	縄文・奈良 ～平安	
					(大 原)	357-1、359-1、360-1、362-6・8				
113		26・32	宮内遺跡	赤生田町	(宮 内)	2946、2947	畠	包 藏 地	縄文古墳・平安	
114		26	上ノ前遺跡	上赤生田町	(上ノ前)	3295、3299、3344-1、3345	畠	包 藏 地	縄 文	
115		26	谷向遺跡	上赤生田町	(谷 向)	3546-1、3547、3548	畠	包 藏 地	古墳～平安	
116	1119	26	間堀1遺跡	上赤生田町	(上ノ前)	3475-1・2・4、3476-1、 3493-2・3、3494-1、3495-2・3、 3503-1、3473-1・2、3478	畠・山林	集 落 跡	縄 文	間堀遺跡
117		26	間堀2遺跡	上赤生田町	(間 堀)	4238-1・2、4239-1、4240-1、4264、 4265-1～4、4269	畠・田	包 藏 地	縄文・平安	
118		26	山東遺跡	上赤生田町	(山 東)	3922、3925、3927	畠	包 藏 地	平 安	
					(子ノ神)	2404				
119		26	大林遺跡	赤生田町	(大 林)	1571、2460-1、2461-1、2517、2518、 2538、2540～2542、2573、2576、 2583	畠	包 藏 地	平 安	
120		26	林遺跡	赤生田町				包 藏 地	上 鋸	
121		26	侍辺城跡	赤生田町	(南)	1457、1451-1	畠・宅地	城 館 址	中 世	伝承地 土塁・館濠有
122		26	南古墳(推定)	赤生田町				填 墓	古 墳	
123		26	南遺跡	赤生田町				包 藏 地	縄文・平安	
124		20・26	子ノ神1遺跡	赤生田町	(子ノ神)	2332-1、2347-1、2357、2362、2367-1、 2370-1	畠	包 藏 地	平 安	
					(上志柄)	1607-1・2				
125		26	子ノ神古墳(推定)	赤生田町				填 墓	古 墳	
126		26	子ノ神2遺跡	赤生田町	(子ノ神)	2156、2159、2113-3、2114-1、2115-1	畠	包 藏 地	平 安	
127		26・27	志柄1遺跡	赤生田町	(志 柄)	1981、1986、1980	畠	包 藏 地	平 安	

() は現在町名変更に伴い使われていません。

発掘対象地のみとした。

館林市埋蔵文化財発掘調査報告書 第18集

館林市遺跡詳細分布調査報告書

館林市の遺跡

発 行 館林市教育委員会

印 刷 所 中塚印刷所

発行年月日 昭和63年3月